

**【研究主題】 学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～**

9 社会・地歴・公民科

(1) 学習内容の関連

社会・地歴・公民科の学習内容は、学習指導要領に示された「内容」に基づき、系統立てられており、相互に関連している。例えば、**図10**に示すように、異なる時代の異なる歴史的事象を学習する場合においては、「外交」・「政治」・「文化」といった共通点で学習内容を関連させることにより、思考力・判断力・表現力を継続的に育成することにつながる。

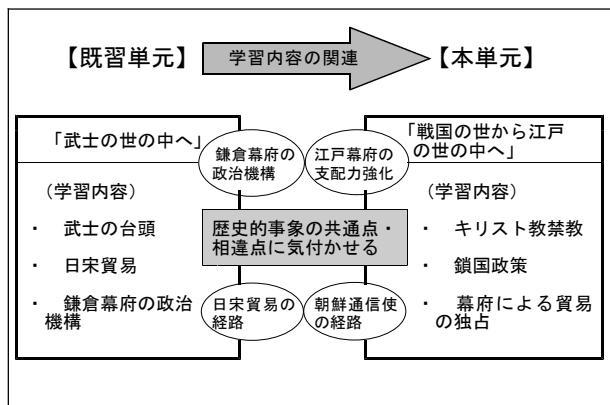


図10 学習内容の関連

(2) 学習内容の関連を踏まえた指導

ア 知識・技能の活用を図る学習活動

社会・地歴・公民科における知識・技能の活用を図る学習活動は、課題解決的な学習を進める中で行われる。このことについて、**図11**に示す評価の4観点から説明することができる。

授業においては、まず、学習課題を設定し、児童生徒の学習への意欲を高める。これは、「社会的事象への関心・意欲・態度」の育成に当たる。次に、課題追究場面では、「社会的事象についての知識」や「資料活用の技能」を習得させる。そして、これらを活用して課題解決のための思考・判断をさせ、解決した結果を表現させる。児童生徒が課題を解決するときには当該時間の学習での習得・活用にとどまらず、既習の学習内容と関連させることでより深い学習になると考える。

イ 見通し・振り返り学習活動

課題解決的な学習を行うためには、問題意識を具現化した学習課題を設定することが必要である。「見通し」を立てる際には、学習内容を構造化し、関連を図る視点を明確にした上で、学習課題解決への予想や仮説を立てさせることが重要である。「振り返り」の場面では、習得・活用した内容を振り返らせ、学習内容の一般化を図る。このような流れで学習した内容は、次の関連単元の「見通し」の場面における新たな学びの基盤となる（**図12**）。

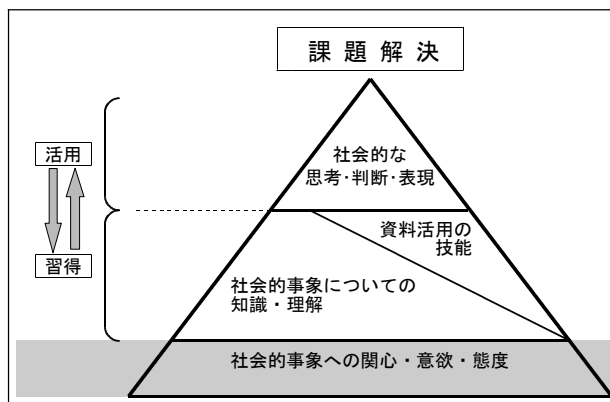


図11 中学校社会科における評価の4観点のイメージ

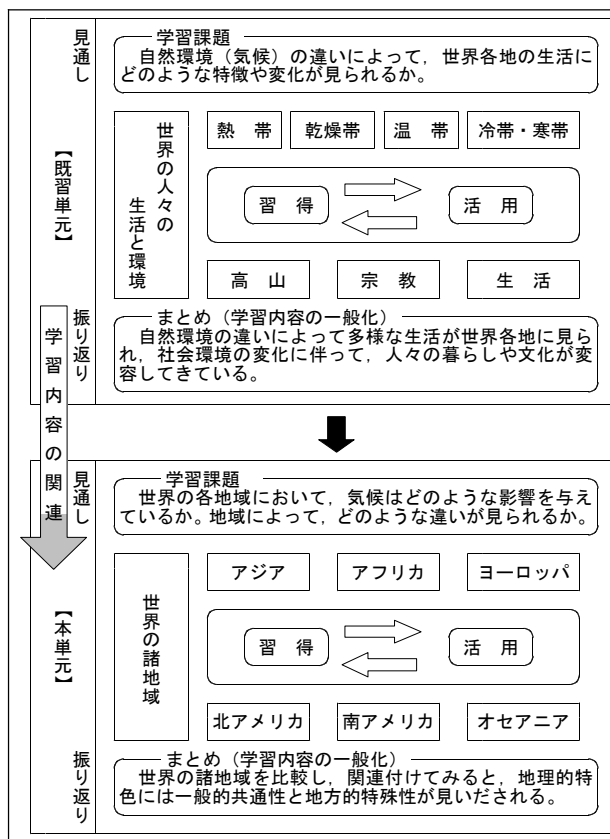


図12 中学校社会科地理的分野（気候）における見通し・振り返り学習活動のイメージ

(3) 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価

ア 「判断基準」の設定

学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定は、図13のように行う。本単元の授業づくりにおいては、学習内容が関連している既習単元で設定した「判断基準」を踏まえて、本単元の「判断基準」を設定することが有効である。そうすることにより、「学習経験、既習内容の把握」、「効果的な指導場面の想起」、「児童生徒の理解度の反映」などの効果を得ることができる。

ここでは、「憲法改正」という点から学習内容の関連を図った、高等学校公民科政治・経済の「判断基準」設定例を表2に示す。

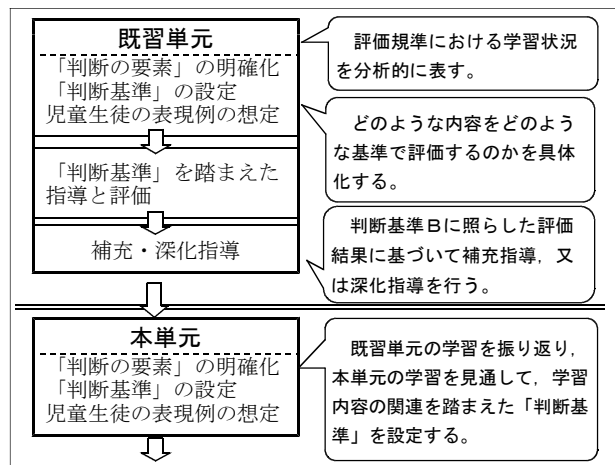


図13 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定

表2 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」設定例

既習単元「日本国憲法の特徴」	本単元「憲法改正問題」
評価規準	
日本国憲法の特徴について、制定の経緯、基本理念を踏まえながら考察し、それらを適切に表現している。	憲法改正問題について、その議論が出てきた背景を踏まえ、新しい人権、安全保障など具体的な事例を基にして考察し、適切に表現している。
判断の要素	
ア 日本国憲法制定の経緯 イ 三大基本原則	ア 憲法改正についての議論が出てきた背景 イ 憲法改正の発議要件、新しい人権、日本の安全保障等に係る問題
判断基準B	
ア 日本国憲法は、太平洋戦争の反省を踏まえて制定された民主的な憲法であることを説明している。 イ 日本国憲法の三大基本原則が、平和主義・基本的人権の尊重・国民主権であることを説明している。	ア 国内外の社会情勢の急激な変化に伴い、現憲法では十分に対応できない事柄が発生しているという議論について、日本国憲法の特徴を踏まえ論述している。 イ 憲法改正の発議要件、新しい人権、日本の安全保障の問題のいずれかを基に、賛成・反対の立場を明確にして論述している。
予想される生徒の表現例	
日本国憲法は、太平洋戦争の反省を踏まえて制定された憲法で、モンテスキューが唱えた三権分立の考えなどが具現化されている。国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を三大原則としている。	私は、日本国憲法の改正に賛成です。憲法が制定されて60年以上が経過しているため、公布時には想定していなかったプライバシーの権利などの新しい人権を憲法に追加すべきであるという議論もあり、我が国の安全保障をめぐる国際情勢も変化しているからです。

本単元では、憲法改正問題についての具体的な事例を基に考察し、表現させた。既習単元における日本国憲法の特徴という学習内容と、本単元の憲法改正問題という学習内容とを関連させて「判断基準」を設定し、指導を行うことで、社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現することができるようになった。これまで「判断基準」に基づく指導と評価の効果は認められてきたが、その精度を上げることが課題となっていた。このように学習内容の関連を踏まえた「判断基準」を設定することによりその精度を上げることができ、児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上が期待できる。

イ 「判断基準」に基づく評価

学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定を試みると、学習課題の設定も変わる。学習課題を設定する際に、既習事項との比較や関連付けを図ることで、児童生徒が学習内容の関連を踏まえて思考・判断・表現しやすくなる。

例えば、図14に示すように、この授業では既習単元で学んだ日本国憲法の特徴と、本単元で学ぶ時事的な内容を関連させて学習課題を設定している。このことにより、生徒は本時の論述をする際に、既習の日本国憲法の特徴を根拠として考察した結果を表現することになる。したがって、教師は生徒の表現を見取る際に学習内容を踏まえた「判断基準」を基に評価することが求められる。

次に、「判断基準」に基づいて行った評価の例を図15に示す。高等学校公民科のこの学習では、憲法改正についての議論が出てきた背景 (ア) と、憲法改正の発議要件、新しい人権、安全保障等に係る問題 (イ) の二つの「判断の要素」から判断基準Bを設定した。生徒の表現1にはア・イ両方の記述が見られるため、B状況と判断した。

中学校社会科歴史的分野の学習における評価の例を図16に示す。この学習では、既習単元である天平文化と本単元の国風文化の特色について比較して、考察させるよう学習課題を設定している。

仮に、「国風文化とはどのような文化であるか。」という学習課題を設定する場合においても、生徒に思考・判断・表現させることができる。また、学習内容の関連を踏まえた「判断基準」に基づいて、学習課題を設定することによって、天平文化と国風文化の類似点や相違点に着目した多面的・多角的な考察を行わせることができ、文化を系統的に捉え、歴史的な見方や考え方を養うことにつながると考えられる。

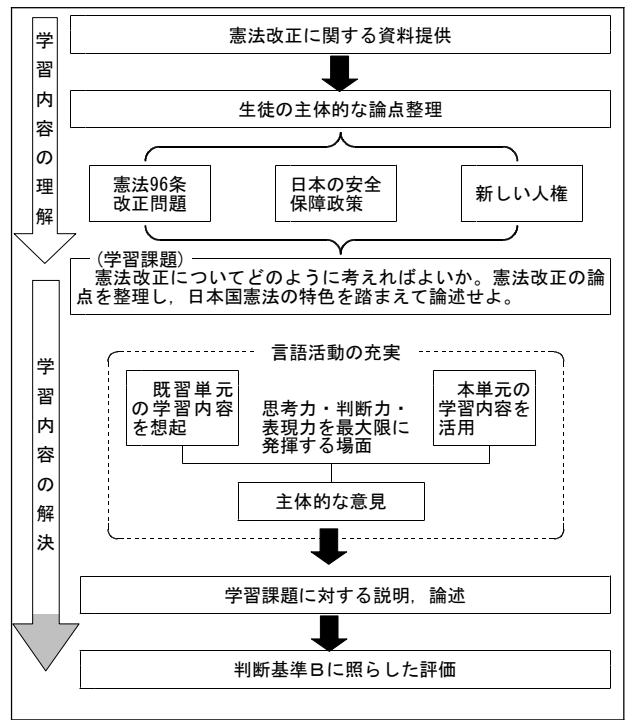


図14 授業の展開と評価までの過程

判断基準B	ア 国内外の社会情勢の急激な変化に伴い、現憲法では十分に対応できない事柄が発生しているという議論について、日本国憲法の特徴を踏まえて論述している。
	イ 憲法改正に当たり、発議要件、環境権・プライバシーの権利等の新しい人権、自衛隊の海外派遣、集団的自衛権等の安全保障の問題のいずれかを基に論述している。
	(学習課題) 憲法改正についてどのように考えればよいか。憲法改正の論点を整理し、日本国憲法の特徴を踏まえ論述せよ。
	(生徒の表現1) 私は「新しい人権」を加えるための憲法改正は必要だと思います。なぜなら、ア 今の日本は日本国憲法をつけた時代とは大きく社会生活の変化が見られ、それに伴って多くの問題も生まれてきていると思うからです。イ 「新しい人権」を加えることで、国民が生活しやすい環境を整えることは一番重要なことであり、国が考えるべきことであるからだと思うからです。
	〔判断基準Bに照らした評価〕 判断基準Bの ア・イ を満たしているため、B状況と評価

図15 判断基準Bに照らした評価例 (高等学校公民科)

判断基準B	ア 国風文化は、平安時代の半ば頃、平安京(京都)で貴族の間で広まった文化であることを説明している。
	イ 国風文化は、大陸の影響を強く受けた天平文化とは異なり、日本独自の新しい文化であることを説明している。
	ウ 仮名文字が発明され、女性による優れた文学作品が生まれたことを説明している。
	(学習課題) 貴族の政治が行われる中で発生した国風文化は、天平文化と比較し、どのような特徴をもった文化であったか。
	(生徒の表現2) ア 国風文化は、10~12世紀頃、京都の平安京で貴族が担った。イ 天平文化とちがって、日本独自の文化で、ウ かな文字が発明され、紫式部や清少納言がひらがなでいろいろつくった。
	〔判断基準Bに照らした評価〕 判断基準Bの ア・イ・ウ を満たしているため、B状況と評価

図16 判断基準Bに照らした評価例 (中学校社会科歴史的分野)

(4) 「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

図17に、補充・深化指導の実践を一般化した模式図を示す。

ア 補充指導

学習課題の意味を正確に把握していない場合や、本時の学習内容における基礎的・基本的事項を習得・活用していない場合、C状況にとどまると判断される。この場合は、図17に示す補充指導を行い、再度説明・論述させることで、B状況の表現に高める。図18に中学校社会科歴史的分野における補充指導の実践例を示す。**生徒の表現3**は、判断基準Bのイとウを満たしていないためC状況と判断した。天平文化と国風文化の特色について資料等を基に復習させたり、国風文化ではどのようなものがつくられたかという視点を与えたりする指導を行うことによって、B状況にまで高めることができた。

イ 深化指導

B状況の表現は、判断基準Bを全て満たしているため、深化指導を行うに当たっては判断基準Aに照らして、新たな視点を与えたり、より深く考察させたりするなどの指導を行うことが有効である。

図19に、中学校社会科歴史的分野における深化指導の実践例を示す。**生徒の表現4**は、判断基準Bを全て満たしている。そこで、天平文化との違いを具体的に考えさせたり、具体的な作者名や作品名を挙げさせたりする指導を行うことによって、A状況にまで高めることができる。

このように、「判断基準」に基づく指導を行い、「判断基準」に基づく評価結果を踏まえて補充・深化指導を行うことは、次単元への興味・関心を高めることになり、思考力・判断力・表現力を高める好機と捉えることができる。

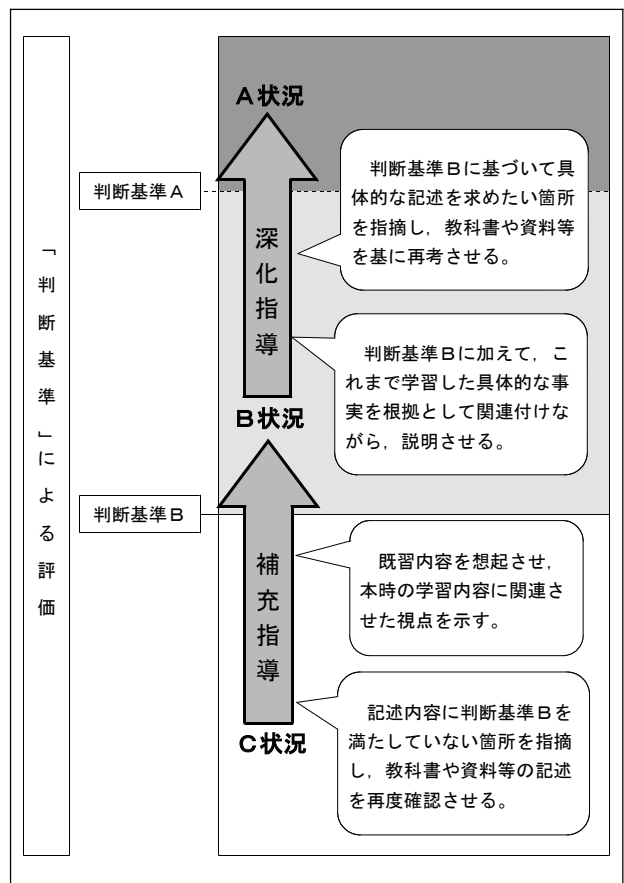


図17 評価結果を踏まえた補充指導・深化指導

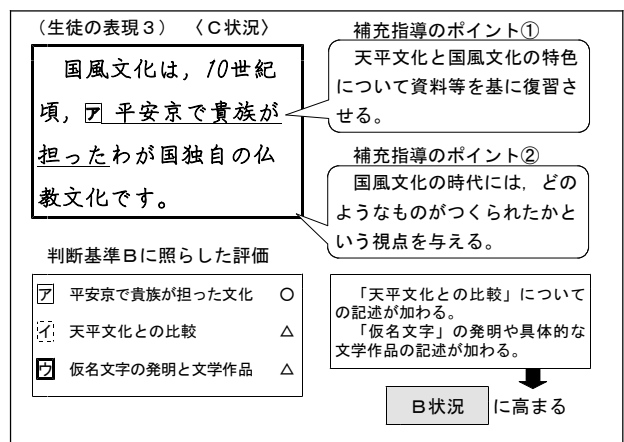


図18 中学校社会科歴史的分野における補充指導の例

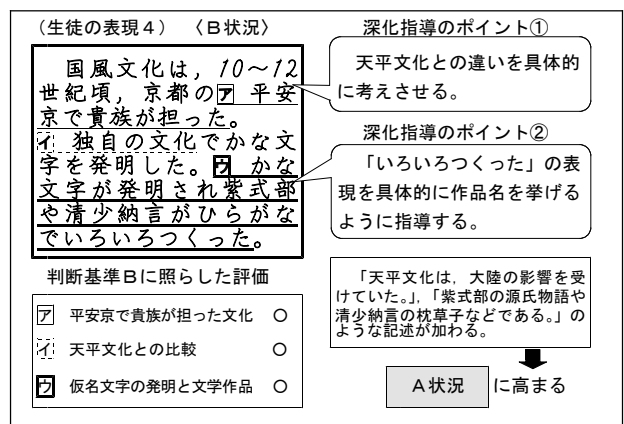


図19 中学校社会科歴史的分野における深化指導の例

【平成26年度調査研究発表会】
第2分科会（社会・地歴・公民科）研究発表

学習内容の関連を踏まえた
思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

鹿児島県総合教育センター

第2分科会（社会・地歴・公民科）研究発表の内容

社会・地歴・公民科における学習内容の関連
とは何か。

社会・地歴・公民科における学習内容の関連を踏まえた指導
はどのように行うか。

社会・地歴・公民科における学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価
はどのように行うか。

社会・地歴・公民科における「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導（補充・深化指導）をどう行うか。

関東大震災前 関東大震災後

復興局土木部「帝都復興事業に就いて」から作成

平成25年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査（改題）

読み取り	① 道路が拡張され、十字に交差するようにつくられている。 ② 防災機能をもたせた大公園がつくられている。	どのようになっているのかという事実の読み取り (資料活用の技能)
解釈	① 自動車の増加に対応しようとしたのではないか。 ② 再び災害が発生した時に避難できるようにしたのではないか。	なぜ、そうなっているのかという理由の解釈 (習得した知識の活用)
説明	「関東大震災の後、東京都では、 将来の自動車の増加や地震・火災への備えに対応するため、区画整理によって大公園や幅の広い道路が作られた。 」	判断基準 基礎的・基本的知識・技能を活用した課題解決

社会・地歴・公民科における学習内容の関連
とは何か。

社会・地歴・公民科における学習内容の関連を踏まえた指導
はどのように行うか。

P.10 図10 学習内容の関連

【既習単元】 → 学習内容の関連 → 【本単元】

「武士の世の中へ」 (学習内容)
・ 武士の台頭
・ 日宋貿易
・ 鎌倉幕府の政治機構

「戦国の世から江戸の世の中へ」 (学習内容)
・ キリスト教禁教
・ 鎖国政策
・ 幕府による貿易の独占

鎌倉幕府の政治機構 → 江戸幕府の支配力強化

日宋貿易の経路 → 朝鮮通信使の経路

歴史的事象の共通点・相違点に気付かせる

知識・技能の活用を図る学習活動

学校教育法 第30条
 2 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

(※中学校は第49条、高等学校は第62条で準用)

学力の3要素

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

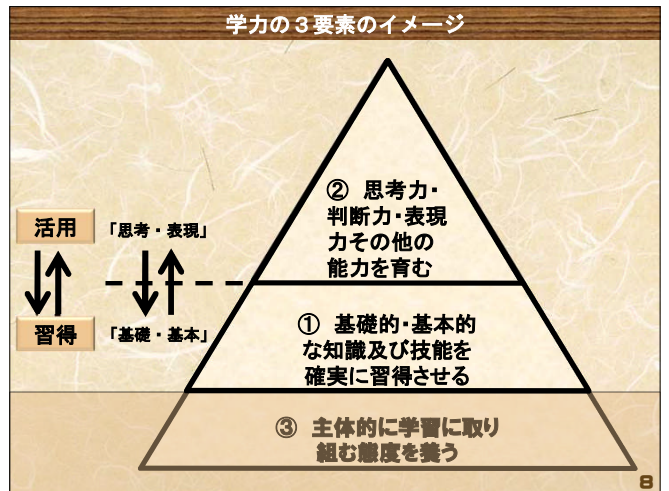


図11 中学校社会科における評価の4観点のイメージ

「関東大震災の後、東京都では**将来の自動車の増加や地震・火災への備えに対応するため**、区画整理によって大公園や幅の広い道路が作られた。」

なぜ、そうなったのか。

- ① 自動車の増加への対応
- ② 災害発生時の避難経路・場所の確保。という理由の解釈 (習得した知識の活用)

課題解決

道路が拡張・直線化、防災機能をもたせた大公園建設などの読み取り (資料活用の技能)

関東大震災についての知識
 大正時代の時代的背景の理解

この地域はどのように変化したか。またそれは**なぜか**。
 (学習課題設定による学習への関心・意欲の喚起)

復興局土木部「帝都復興事業に就いて」から作成

社会・地歴・公民科における学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定と評価 どのように行っか。

P.11 表2 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定例

既習単元	本単元「憲法改正」
	評価規準
日本国憲法 の 特色	憲法改正について、その議論が出てきた背景を踏まえ、新しい人権、安全保障など具体的な事例を基にして考察し、適切に表現している。
	ア 憲法改正の議論が出てきた背景 イ 憲法改正の発議要件、新しい人権、
	ア 国内外の社会情勢の急激な変化に伴い、現憲法では十分に対応できない事柄が発生しているという議論について、 日本国憲法 の特色を踏まえて論述している。
	私は、日本国憲法の改正に賛成です。憲法が制定されて60年以上が経過しているため、公布時には想定していなかったプライバシーの権利などの新しい人権を憲法に追加すべきであるという議論もあり、我が国の安全保障をめぐる国際情勢も変化しているからです。

図15 判断基準Bに照らした評価 (高等学校公民科)

判断基準B

ア 国内外の社会情勢の急激な変化に伴い、現憲法では十分に対応できない事柄が発生しているという議論について、**日本国憲法**の特色を踏まえて論述している。

イ 憲法改正の発議要件、新しい人権、日本の安全保障の問題のいずれかを基に、賛成・反対の立場を明確にして論述している。

【生徒の表現1】

私は「新しい人権」を加えるための憲法改正は必要だと思います。なぜなら、今の日本は、日本国憲法をつくった時代とは大きく社会生活の変化が見られ、それに伴って多くの問題も生まれてきているからです。「新しい人権」を加えることで、国民が生活しやすい環境を整えることは一番重要なことであり、国が考えるべきことであると思うからです。

判断基準Bのア、イを満たしており、B状況と判断される。

社会・地歴・公民科における「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導（補充・深化指導）をどう行うか。



判断基準Bに照らした評価（中学校社会科歴史的分野）

【学習課題】

貴族の政治が行われる中で発生した国風文化は、天平文化と比較し、どのような特徴をもった文化であったか。



何て書こうかな



【生徒の表現2】

国風文化は、10世紀～12世紀頃、京都の平安京で貴族が担った。天平文化とちがって、日本独自の文化で、かな文字が発明され、紫式部や清少納言がひらがなでいろいろつくった。

判断基準Bに照らした評価

図16 判断基準Bに照らした評価（中学校歴史的分野）

- 判断基準B
- ア 国風文化は、平安時代の半ば頃、平安京（京都）で貴族の間で広まった文化であることを説明している。
 - イ 国風文化は、大陸の影響を強く受けた天平文化とは異なり、日本独自の文化であることを説明している。
 - ウ 仮名文字が発明され、女性による優れた文学作品が生まれたことを説明している。

【生徒の表現2】

国風文化は、10世紀～12世紀頃、京都の平安京で貴族が担った。天平文化とちがって、日本独自の文化で、かな文字が発明され、紫式部や清少納言がひらがなでいろいろつくった。

判断基準Bのア、イ、ウを満たしており、B状況と判断される。

図18 中学校歴史的分野における補充指導の例

（生徒の表現3） 〈C状況〉 補充指導のポイント①

国風文化は、10世紀頃、平安京で貴族が担ったわが国独自の仏教文化です。

天平文化と国風文化の特色について資料等を基に復習させる。

補充指導のポイント②

国風文化の時代には、どのようなものがつくられたかという視点を与える。

判断基準Bに照らした評価

- ア 平安京で貴族が担った文化 ○
- イ 天平文化との比較 △
- ウ 仮名文字の発明と文学作品 △

「天平文化との比較」についての記述が加わる。

「仮名文字」の発明や具体的な文学作品の記述が加わる。

B状況 に高まる

図19 中学校歴史的分野における深化指導の例

（生徒の表現2） 〈B状況〉

国風文化は、10～12世紀頃、京都の平安京で貴族が担った。独自の文化でかな文字を発明した。かな文字が発明され紫式部や清少納言がひらがなでいろいろつくった。

深化指導のポイント①

天平文化との違いを具体的に考えさせる。

深化指導のポイント②

「いろいろつくった」の表現を具体的に作品名を挙げるように指導する。

判断基準Bに照らした評価

- ア 平安京で貴族が担った文化 ○
- イ 天平文化との比較 ○
- ウ 仮名文字の発明と文学作品 ○

「天平文化は、大陸の影響を受けていた。」、「紫式部の源氏物語や清少納言の枕草子などである。」のような記述が加わる。

A状況 に高まる

研究の成果と課題

成果

- ① 「判断基準」の精度を上げることができる。
- ② 思考力・判断力・表現力を継続的に育成できる。
- ③ 補充指導や深化指導がより充実する。

課題

△ 「判断基準」を生かした思考・判断・表現の総括的評価の在り方について、更に研究を進める必要がある。

「学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成」
～第4学年「ごみのしよりと利用」における実践を通して～

鹿児島市立西陵小学校
教諭 前野 剛志

I 研究実践の目的

学習指導要領では、「言語活動の充実」が重視されている。評価の観点については、「社会的な思考・判断」から「社会的な思考・判断・表現」に変更され、「調べて考えたことを表現する力」を一層重視することが求められている。

児童の思考・判断の高まりを的確に評価するため、言語活動等における観点別の評価規準の設定に加え、児童の思考・判断の過程やその結果としての表現を質的な面から適切に評価するために、思考・判断・表現の学習状況を、より分析的に具体化した「判断の要素」から「判断基準」を設定し、評価を行うことにした。

「判断基準」の設定においては、おおむね満足できるB状況の尺度として判断基準Bとともに、予想される児童の表現も想定しておく。児童の言語活動を通じた思考・判断の過程やその結果としての表現を見取る際、判断基準Bに照らして評価し、判断基準Bを満たしていない児童には補充指導を、判断基準Bを満たしている児童には深化指導を行うことにした。

そこで、本研究では、第4学年の廃棄物の処理の学習の中で、様々な対策や事業が計画的・協力的に行われていることなど、飲料水の確保の学習との関連を踏まえた「判断基準」に基づく指導と評価の在り方を中心に研究を進めていくことにした。

II 研究の実際

1 教材観，児童観，指導観

(1) 教材観

第4学年の本単元「ごみのしよりと利用」は、人々にとって必要な廃棄物の処理について、自分たちの生活や産業との関わりや、ごみ処理の事業が計画的・協力的に進められていることを具体的に調べ、ごみ処理に関する対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考える単元である。

既習単元の「水はどこから」の学習では、浄水場を見学したり、資料を活用したりして、人人の生活や産業に欠かすことのできない水がいつでも使えるように確保されていることや、水を安定供給するための事業が計画的・協力的に進められていることを調べている。また、水資源には限りがあり、節水や水資源の保全の必要性についても、自分たちの生活と照らし合わせながら考える学習を行ってきた。そこで、既習単元の学習内容と比較したり、関連を考えたりする活動も取り入れ、地域の人々が健康的な生活を営むための働きについてより深く考えさせていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、個人差はあるものの、社会科の学習に関心をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。特に、必要な資料を探し、そこから必要な情報を見付け、基本的事項を理解したり問題解決を図ったりする様子が見られる。しかし、読み取った情報を基に、自分の考えをまとめることや、自分の考えと友達のことを比較したり、関連付けたりしながら考えることを通して、社会的事象の意味をより広い視点で考える力は十分に育っていない。

そこで、本小単元では、問題解決に必要な資料の提示や発問の工夫を行うことで、児童の問題意識を高め、視点をもたせる追究活動に取り組ませ、個々の追究結果を比較し、関連付けながら、総合的に考察したり判断したりする場面を設定することで、様々な事業の意味や人々の工夫などについて考えをもたせ、表現させる場を設定していきたい。

(3) 指導観

本小単元の指導に当たっては、児童の思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の状況を見取り、的確な評価を行うことで、補充・深化指導を図っていききたい。

「つかむ・見通す」の段階では、ごみ置き場の写真を提示したり、ごみの分別を体験したりして、「ごみをどのように分別するのか。」「どうしてごみの分別をするのか。」という問いを投げ掛け、児童に問題意識をもたせる。また、鹿児島市の人口とごみの量のグラフから、ごみ処理の工夫や分別との観点についても予想をさせる。学習問題を設定した後、児童たちの予想や疑問から追究の柱を設定していく。

「調べる」段階では、追究の柱に沿って、個人で教科書や資料集などを使い、調べる視点をもって活動が進められるようにする。また、「資源の有効的な利用の必要性」、「人々の生活環境や健康を保つための事業が計画的・協力的に行われていること」、「働く人々の工夫や努力」といった既習単元の関連する内容と比較させる活動を取り入れ、社会的事象の特色や関連について、より深く考えさせるようにする。さらに、調べたことや学習問題についてまとめる際、グループ活動を取り入れて意見交流を行い、自分の考えを広げたり深めさせたりする。その際、評価規準で設定された「社会的な思考・判断・表現」の学習状況をより分析的・具体的に表した尺度である「判断基準」を活用していく。指導者は、児童の言語活動による思考・判断の過程やその結果としての表現を見取るために、「判断基準」を活用して補充指導・深化指導を行っていく。

「まとめる・広げる」の段階では、地域社会の一員としての自覚を高めるために、鹿児島市のごみを減量するための取組についての意見交換を行い、根拠を明確にして自分の考えを表現する場を設定していく。その際、既習単元との関連から「資源の確保」、「環境の保全」などの視点に気付かせ、ごみ減量のために必要なことについての児童の考えを深めさせていく。また、これからのごみ処理について自分の考えをまとめる際、「判断基準」を生かし、補充・深化指導を行っていききたい。

2 本小単元の目標, 評価規準

(1) 小単元名 「ごみのしよりと利用」

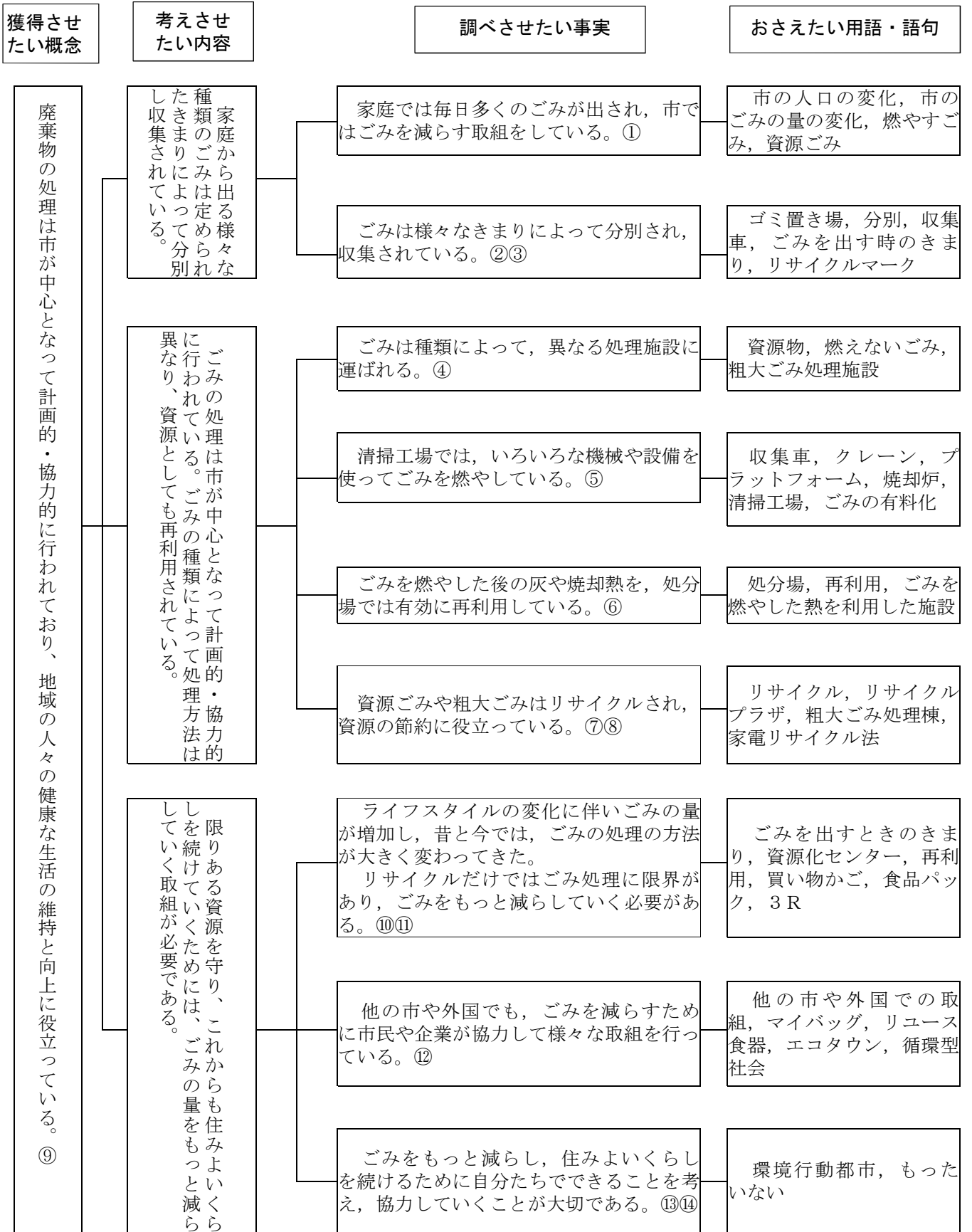
(2) 小単元の目標

- ごみの処理や有効利用と自分たちの生活や産業との関わりや、これらに関わる対策や事業が計画的・協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量やリサイクルなど自分たちが協力できることを考え、進んで取り組もうとする。
- ごみの処理や有効利用の諸活動から学習問題を見だし、施設・設備を調査、見学したり資料を活用したりして調べたことを白地図や作品にまとめるとともに、これらの対策や事業が地域の人々の健康の維持向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する。

(3) 評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業に関心をもち意欲的に調べるとともに、学習したことをごみの減量やリサイクルなど、生活の中での取組に生かそうとしている。	ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業について、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活の維持と向上に役立っていることを考えたり、ごみの減量や資源の有効利用のために、生活の中で自分たちにできることを判断したりして、それらを適切に表現している。	ごみの処理や有効利用に関わる施設を調査・見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集め、これらの事業が計画的、協力的に進められていることを読み取って、ノートや作品にまとめている。	ごみの処理や有効利用の事業は自分たちの生活や産業を支える大切な取組であり、これらの対策や事業が計画的・協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

3 小単元の知識の構造分析



(※ ①～⑭は単位時間を示している。)

4 指導計画（全14時間）

	主な学習活動	時	◇指導上の留意点 ○資料 ☆評価
つかむ	1 学校や家庭から出されているごみの量や種類について調べる。 ・家庭から出るごみを種類別に分ける。 ・ごみ置き場を見学する。	①	◇ ごみを種類別に分ける活動を行うことで、なぜ、ごみを種類別に分けて出すのかについて、疑問をもたせるようにする。 ◇ 教科書の、ごみを収集する人の話から、分別の理由を考えさせるようにする。
	2 調べたことや疑問に思ったことから学習問題を立てる。 <学習問題> 分けて集められたごみはどのようにしてしよりにされたり、再利用されたりするのだろうか。	②	○ ごみ置き場の写真 ○ 市の人口の変化とごみの量の変化 ☆ ごみの処理に関わる対策や事業に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。（関心・意欲・態度）
	3 学習問題に対する予想を基に、調べる内容や方法について計画を立てる。 ○ ごみの分別の仕方 ○ 出されたごみの処理のされ方や処分された後のこと ・ 燃やせるごみ ・ 燃やせないごみ ・ 粗大ごみ ・ 資源ごみ ○ ごみ処理に関する課題	③	☆ 学習問題について予想し、調べ方や調べる順序を考え、表現している。（思考・判断・表現）
調べる	4 処理施設の資料を基に、分別されたごみの行き先を予想し、確かめる。 ごみはどのように分けられ、どこに運ばれるのだろうか。 ・ ごみの分別カレンダーや処理施設の資料を基に分別されたごみの行き先を確かめる。 ごみは、もやせるごみ、しげんごみ、そ大ごみなどの種類に分けられ、それぞれのしせつでしよりにされている。	④	◇ 副読本、小冊子、ごみ出しカレンダーなどで、ごみが種類別に分けられていることに気付かせる。 ◇ ごみを分別する理由を考え、ごみが運ばれる施設が違うということを考えさせる。 ○ 副読本 ○ 美化教室の冊子 ☆ ごみの分別を根拠に、ごみの行き先を考え、表現している。（思考・判断）
	5 燃やせるごみの処理の仕方について調べる。 もやせるごみはどこで、どのようにしてしよりにされるのだろうか。 ・ 燃やすごみは、清掃工場に運ばれる。 ・ ごみが燃えた後の灰を有効利用したり、ごみを燃やす時の熱で発電をしたりしている工夫も確かめる。 もやせるごみはいろいろな機械せつびを使ってもやしている。ごみをもやしたあとの灰や熱は有効に利用されている。	⑤ ⑥	◇ 動画を使って、清掃工場でごみを燃やす際の工夫について気付かせる。 ◇ 燃やすことで、ごみの重さや体積が小さくなること、灰の埋め立ての様子や灰の利用などについて資料で押さえさせる。 ○ 副読本 ○ 美化教室の冊子 ☆ 清掃工場や埋め立て処分場では、環境に配慮する工夫や資源を有効に使う工夫をしながら、ごみの処理が計画的に進められていることを理解する。（知識・理解、資料活用）
	6 資源ごみの処理の仕方について調べる。 しげんごみは、どこでどのようにリサイクルされるのだろうか。 ・ 資源ごみはリサイクルプラザで更に細かく分けられる。 ・ リサイクルプラザで分けられたものは圧縮され、再生工場でリサイクルされる。 しげんごみはリサイクルされ、資源の節約に役立っている。	⑦	◇ リサイクルプラザや再生工場の様子から、機械や人の手によって、リサイクルが行われている様子に気付かせる。 ◇ 家電リサイクル法も取り上げ、きまりに基づいて、リサイクルが行われていることにも気付かせる。 ○ 副読本 ○ 美化教室の冊子 ☆ ごみを再生し、再利用する取組が資源の節約、有効利用につながっていることについて考えて表現している。（思考・判断・表現）

	<p>7 粗大ごみや燃やせないごみの処理の仕方について調べる。</p> <p>そ大ごみやもやせないごみはどこでどのようにしよりにされるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 粗大ごみは再利用できるものは再利用している。 粗大ごみや燃やせないごみは細かく砕かれて、埋め立て処分場に埋め立てられる。 <p>粗大ごみや燃やせないごみは、細かくした上で埋め立て処分場に埋められ、使える部分は再利用している。</p>	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 粗大ごみについては、使えるものを再利用している様子に触れ、資源の有効活用につながっていることを押さえる。 ◇ 埋め立て処分場が一杯にならないように、ごみを減らすことの大切さを考えさせる。 ○ 副読本 ○ 美化教室の冊子 ☆ ごみによって処理のされ方も違い、再利用の取組も計画的に行われていることを理解する。（知識・理解）
まとめる・広げる	<p>8 これまでの学習を振り返り、学習のまとめをする。</p> <p>分けて集められたごみはどのようにしてしよりにされたり、再利用されたりするのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資源ごみや粗大ごみのリサイクルについて、これまでの学習を振り返り、学習問題のまとめを考える。 <p>市では、回収したごみを分別収集することで、市民の健康や環境を考え、協力しながら計画的に処理している。 (単元の学習問題のまとめ)</p>	⑨	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 様々なごみの処理の仕方や人々の工夫から共通する箇所を考えさせ、学習問題に対するまとめのキーワードを予想させる。その際、既習單元である「水はどこから」との関連を図る。 ◇ ごみ減量の必要性から、新たな問いを考えさせる。 ○ これまでの学習で活用した資料 ☆ ごみの処理に関わる対策や事業は計画的、協力的に行われていることを理解している。（知識・理解）
	<p>9 昔と今のごみの処理の仕方の違いについて調べる。</p> <p>ごみの処理の仕方はどのようにかわってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ処理の仕方がどのように変化してきたかを調べ、ごみが増えてきた理由を考える。 70年くらい前…各家庭で処理していた。 40年くらい前…市が収集・処理するようになり、ごみの量が増え続けた。 <p>人々の生活が変わり、ごみの量がふえたため、家庭で処理していたごみを市で処理するようになるなど、ごみのしよりの仕方が変わった。</p>	⑩ ⑪	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 北部清掃工場が新しく建てられたことやリサイクルプラザができたことの原因を考えさせ、課題意識をもたせる。 ◇ 昔と今の生活の違いから、ごみが増える原因に気付かせるとともに、3Rなど、ごみの減量化やその取組の必要性に気付かせせる。 ◇ 環境未来館の方の話を伺い、ごみの減量の必要性に気付かせせる。 ○ 副読本 ○ 美化教室の冊子 ☆ 人々の生活の変化からごみの量が増えたことやごみ減量の必要性について考え、表現できる。（思考・判断・表現）
	<p>10 ごみを減らすための取組について、調べる。</p> <p>ごみ減量のため、どんな人たちがどんな取組をしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民や企業、他地域や外国のごみ減量の取組例を調べ、レポートにまとめて発表し合う。 市民や会社も協力して「環境行動都市」を目指している。 他地域や外国にも、市民や会社が協力した取組がある。 <p>国内外で市や企業など、様々な人々が協力をしてごみを減らすための工夫や努力をしている。</p>	⑫	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 調べて分かったことを基に、ごみを減らすために何ができるかを考えさせる。 ◇ 調べたことを、短時間でまとめられるように、ワークシートの用意をする。 ◇ 次時のために、調べたことを基に自分たちにできることも考えさせておく。その際、総合的な学習の時間との関連を図る。 ○ ごみの減量化を行っている事例（他の市町村、企業、外国の取組例） ☆ ごみ減量のために行政だけでなく、市民や企業が協力して様々な取組をしていることやそれらの取組が住みよいくらしの実現につながっていることを理解している。（知識・理解、資料活用の技能）

<p>11 これまで学習してきたことを生かして、ごみ減量のためにどうすればよいのか、意見発表会を開く。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鹿児島市のごみをへらすためにはどんな取組が必要なのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの意見を基に、自分にできることや社会全体で取り組むことを考え、提案する。 (分別などのきまりを守る。) (むだな疮瘡をやめるようにする。) (マイバッグ運動に協力する。) (ものを大切に使う。本当に必要なものかどうか、買う前によく考える。) <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">ごみをへらしていくためには、市、企業や市民が一体となって協力していくことが大切である。</p>	<p>⑬ 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ これまで学習してきたことや新たに調べたことを具体例として挙げて発表させるようにする。 ◇ リサイクル課の方を招いて、鹿児島市の実情について説明し、児童の考えに対して助言を頂く。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表で活用する資料（前時の資料） ○ これまでの学習で用いた資料 <ul style="list-style-type: none"> ☆ 地域の人々の健康な生活の維持と向上のために、自分も地域社会の一員として協力しようとしている。（関心・意欲・態度） ☆ 意見発表会を基に、住みよい社会のために自分ができることを考え、表現している。（思考・判断・表現）
<p>12 他地域のごみ減量のための工夫を調べ、これからの住みよい社会について考える。</p> <p><名古屋市の事例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤前干潟の問題 ・ 20年以上の話合い、計画、取組、市全体でレジ袋の有料化。 <p><鹿児島市の事例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北部清掃工場の施設 ・ 埋め立て処分場の問題 ・ 一人53gのごみ減量 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">ごみ減量の取組は市の課題や計画に合わせて行われている。ごみをへらしていくためには、社会全体が一体となって協力していくことが大切である。</p>	<p>⑭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 鹿児島市との共通点や、相違点に焦点を当て、それぞれ、市の実情や計画に合わせて、行政や企業、市民が協力してごみ減量に取り組んでいることに気付かせる。 ◇ 名古屋市的事例から、行政と市民が長い間話し合ってごみ減量の取組を決めていることに気付かせる。 ◇ 教科書の富山市、ドイツの事例について、共通する部分について触れて、学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 名古屋市での話合いの新聞記事、レジ袋有料を伝える写真 ○ 前時で使った鹿児島市に関する資料 ☆ 他地域のごみ減量についての取組を基に、これからの住みよい社会について自分ができることを考え、表現している。（思考・判断・表現）

5 単元間の「判断基準」の設定



既習単元「水はどこから」	本単元「ごみのしよりと利用」
評価規準（社会的な思考・判断・表現）	
<p>水資源を守るために大切なことや、自分たちにできることを考え、表現することができる。（社会的な思考・判断・表現）</p>	<p>意見発表会を基に、これからの住みよい社会のためのごみ減量の取組において大切なことを考え表現することができる（社会的な思考・判断・表現）。</p>
評価時期及び評価の対象	
<p>○ 12 時間構成の第 11 時における終末時 ○ 学習したことを踏まえ、生活に生かすための考えをまとめた内容</p>	<p>○ 14 時間構成の第 13 時における終末時 ○ 新たな学習問題について自分の考えをまとめた内容</p>
判断の要素	
<p>ア 日常生活の中での節水 イ 水資源の環境を守るための取組</p>	<p>ごみの減量のための行政・企業・市民の協力</p>
判断基準 B	
<p>ア 水の確保のために、節水に努めることが大切であることを説明している。 イ 水は循環しているため、川や海を汚さずに、水資源の環境を保全していく必要があることを説明している。</p>	<p>ごみ減量の取組は、行政・企業・市民が協力して行うことが不可欠であることを説明している。</p>
<p style="text-align: center;">【予想される児童の表現例】</p> <p>生活に必要な水がこれからも使えるように、節水をし、川や海を汚さないことが大切である。</p>	<p style="text-align: center;">【予想される児童の表現例】</p> <p>ごみをへらしていくためには、一人一人の努力はもちろんのこと、市民と市や企業（会社）の協力も必要である。</p>
C 状況児童への指導	
<p>これまでの学習の資料を提示し、水をきれいにするためにはたくさんの工程が必要であることや、水は循環し、限りある資源であることを想起させ、節水や川や海を汚さないようにすることが大切であることに気付かせる。</p>	<p>市のごみ減量は、一部の人々の取組では難しいことを確認させる。また、ごみ減量化の取組の事例を確認させたり、ゲストティーチャーの話を取り返らせたりして、道徳の内容項目的な内容に限定されないようにする。</p>
判断基準 A	
<p>（判断基準 B に加えて） ア 節水や水資源の環境保全のための具体的事例を挙げて説明している。 イ 水をきれいにするためには、多くの手間が掛かっていることを説明している。</p>	<p>（判断基準 B に加えて） ごみの減量化は、各自治体の実態に応じて工夫されていることを説明している。</p>
B 状況児童への指導	
<p>節水や水資源の環境保全のためにどんなことができるかを考えさせたり、水が水道まで送られてくるまでの経緯を取り返らせたりする。</p>	<p>具体的にどんな取組ができるか、誰がそれを行うべきかを、授業の内容を取り返りながら、考えさせる。</p>

6 本時 (13/14)

(1) 目標

意見発表会を通して、これからの住みよい社会のためのごみ減量の取組において大切なことを考え、表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	◇指導上の留意点 ○資料 ☆評価				
つかむ・見通す	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <div data-bbox="316 443 799 528" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>鹿児島市のごみをへらすには、 どんなことが必要だろう。</p> </div> <div data-bbox="316 544 655 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>鹿児島市のごみ減量の 必要性を印象付けるために、「市内の小学生にパソコンが1台ずつ買える。」「生ごみの割合が多い。」ことなどの資料を提示する。</p> </div> 	2	<p>◇ 住みよいくらしを続けていくために、地域のごみの問題について考える必要があることを確認させる。また、自分たちが調べたことを基に、「鹿児島市のごみを減らすための取組をリサイクル課の方に提案しよう。」と投げ掛け児童に問題意識や相手意識をもたせるようにする。</p>				
	調べる	<p>3 グループごとに考えたごみ減量のための取組を発表する。</p> <table border="1" data-bbox="303 869 805 1093" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th data-bbox="303 869 566 904" style="text-align: center;">市・企業</th> <th data-bbox="566 869 805 904" style="text-align: center;">個人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="303 904 566 1093"> <ul style="list-style-type: none"> ・ レジ袋の有料化。 ・ 服など、要らないものを回収して、リサイクルする。 ・ 細かく分別する。 </td> <td data-bbox="566 904 805 1093"> <ul style="list-style-type: none"> ・ マイバッグを利用する。 ・ 3Rの取組を実行する。 ・ ダンボールコンポストの取組を実行する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>4 グループから出された意見を基に意見交換を行う。</p> <p><予想される児童たちの反応></p> <p>(○: プラス面, △マイナス面)</p> <p>○ レジ袋を辞退することで受けられる特典をもっと付けたら、マイバックをもっと持ってくると思う。</p> <p>△ レジ袋は、ポイント制など、お店によって差がある。</p> <p>○ 大崎町のリサイクル率がすごい。鹿児島市も、もっと分別を細かくするべきだ。</p> <p>△ 分別を細かくすると手間が掛かる。みんなが守れるか。</p> <p>○ 生ごみを工夫して減らせば、ごみをかなり減らせると思う。</p> <div data-bbox="295 1704 805 1951" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;">広報誌を提示して、不法投棄の問題に気付かせる。</p> </div>	市・企業	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・ レジ袋の有料化。 ・ 服など、要らないものを回収して、リサイクルする。 ・ 細かく分別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイバッグを利用する。 ・ 3Rの取組を実行する。 ・ ダンボールコンポストの取組を実行する。 	8
市・企業		個人					
<ul style="list-style-type: none"> ・ レジ袋の有料化。 ・ 服など、要らないものを回収して、リサイクルする。 ・ 細かく分別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイバッグを利用する。 ・ 3Rの取組を実行する。 ・ ダンボールコンポストの取組を実行する。 						
10							

レジ袋がどこでも有料になれば、みんなマイバックを持っていくと思う。



5 自分の考えをノートに書く。

- みんなが守らないと、ごみを減らすための取組はうまくいかない。
- ごみの有料化が上手くいっている地域と、うまくいかない地域の違いは何だろう。
- エコバックだけでゴミが減らせるのだろうか。
- 生ごみが、意外と多いことに気が付いた。食べ残しを減らして、生ごみを減らせばごみはかなり減らせるのではないだろうか。

6 ゲストティーチャー（鹿児島市リサイクル推進課の方）の話を聞き、これからのごみ問題を考える上で大切な心構えについて考える。



- みんなが発表してくれた取組は、どれも大切です。
- 市民にマイバックを勧めるとともに、会社にもレジ袋の有料化のお願いをしている段階です。
- ダンボールコンポストも学校への出前授業を行っています。ダンボールコンポストも肥料が必要ない人にとってはごみが増えることもあります。生ごみは、水をよく切ってもらっただけでも十分です。
- 大崎町と鹿児島市では処理施設の違いもあるので、分別の仕方も違いがあります。鹿児島市は鹿児島市の計画に基づいて、ごみの処理を行っています。鹿児島市も大崎町を参考にして、よりよい工夫をしているところと聞いています。

5

◇ 意見交換の中で、疑問が出てきたらそれも取り挙げ、判断の材料にしていく。また、意見交換はオープンエンド化し、根拠を踏まえた考えを賞賛する。



分別が大変という人や、忙しくてできないという人は地区の人たちで集まり、みんなで分別すれば早くできて、ごみもへらせると思う。

☆ これまでの学習を基に、根拠をもって、意見を言うことができたか。（社会的な思考・判断・表現）〔発言〕

◇ 意見交換を通して、考えが変わった場合や、根拠付けが変わった場合はワークシートに記録し、意図的に発表させる。

◇ 自分が賛成するものに挙手し、全体の考えの変容も確認させる。

☆ 意見交換を基に自分の考えを整理できたか。

（社会的な思考・判断・表現）〔論述・ノーワークシート〕

◇ ゲストティーチャーの話を聞きながら、キーワードになることを板書し、鹿児島の実態と照らし合わせてごみの減量化を考え、市全体で協力していくことの大切さを捉えさせる。

8

まとめる・深める	<p>7 本時のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>ごみをへらすには、一人一人の努力はもちろんのこと、市やき業（会社）の協力も必要である。また、市町村の計画にそって行うことも大切である。</p> </div> <p><補充指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 板書から、キーワードから考える。 <p><深化指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村の実情などによって、それぞれの計画に沿って行われていることについて考える。 <p>8 次時の学習について考える。</p>	<p>◇ 学習を振り返らせ、キーワード（市・企業・市民の協力）を使って、本時のまとめを自分で書かせた後、ペア等で交流させる。その際、「判断基準」を活用して、机間指導をしながら、補充・深化指導を行う。</p> <p>◇ 行政・企業・市民の協力が必要であることについては、既習単元の水資源の保全との関連についても気付かせる。</p> <p>12 ☆ 本時の学習を振り返り、キーワードを用い、学習のまとめを記述している（社会的な思考・判断・表現）〔論述・ワークシート〕。</p> <p>◇ 児童たちの発表を基に本時のまとめをする。</p> <p>◇ 本時の学習を踏まえて、鹿児島市と他の地域の取組を比べる学習について予告する。</p>
----------	--	--

7 考察

本時の評価は、ごみ減量のためどういったことが大切であるかを記述させ、「判断基準」に照らして見取った。

ア 補充指導の例

自分で考えたまとめ

ごみをへらすためにはマイバクやリサイクルショップで売ったり生ごみは水を切ってごみを出せばごみがへたりお金がそれだけに必要がなくていいかもしれない。



みんなの意見を聞いて考えたまとめ

ごみをへらすためには、市民・きょう市のみんなが協力することや市町村に合わせて行うことが大切である。

この記述は、判断基準Bを満たしていない。そこで、机間指導をしながら、「一部の人だけの取組でいいのだろうか。」と声を掛けたり、レジ袋の例を挙げたりしたところ、下のようなB状況の記述をすることができた。

イ 深化指導の例

自分で考えたまとめ

ごみをへらすためにはみんながきょうや市民が協力してよく考えてかごのものをしたリ物を大切に扱うというのが大切。



ごみをへらすためには市民・きょう市のみんなが協力することや市町村に合わせて行うことが大切である。

この記述は、判断基準Bを満たしている。このB状況の児童には、さらに、鹿児島市と大崎町の分別の仕方に違いがあるのは処理施設の関連もあるという事例も取り上げたところ、左のようなA状況の記述ができた。

ウ A状況の例

ごみをへらすためには市や国のルールを守ることが大切。一番大切なのはみんながルールを守ることが大切。

この記述は、判断基準Aを満たしているため、A状況とした。本時では、一部人々の取組ではなく、行政・企業・市民の協力が不可欠であることを捉えさせ、「市の計画に基づいた取組がなされている」ということを判断基準Aとした。

Ⅲ 成果と課題

1 研究の成果

- 児童の思考・判断・表現の能力を見取るために「判断基準」を活用することで、教師にとって、どのような指導や助言が必要かが分かり、評価を指導に生かすことができた。
- 「判断基準」に基づいた論述の場を設定することで、児童が思考・判断したことを文章表現する機会を設定することができ、児童が自分でまとめを考えたり、児童の言葉で本時のまとめをしたりする授業を行うことができた。
- 既習単位との関連を意識した授業を行うことで、児童が、以前の学習を想起し、既習単位と本単位の内容の類似点に気付く様子が見られた。

2 研究の課題

- △ 評価規準と発達の段階に応じた「判断基準」を設定し、系統立てて記述する活動を展開し、児童の思考・判断・表現の能力を伸ばしていく必要がある。
- △ 児童が学習内容の関連がつかめるよう、既習事項を活用する場を設定し、「判断基準」を用いた思考・判断・表現の活動を更に工夫していくために、指導計画を十分に検討していく必要がある。

「学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成」
 ～第2学年「産業の発達と幕府政治の動き」における実践を通して～

薩摩川内市立川内北中学校
 教諭 松永哲郎

I 研究実践の目的

中学校学習指導要領は、近年の様々な教育的課題に応えるために、これまでの学習内容とその指導の在り方について見直し、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」及び「課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」に焦点を当て、特に言語に関する能力や体験活動の充実を目指している。また、学習指導と表裏一体となる「評価」についても見直され、「技能・表現」が「技能」に、「思考・判断」が「思考・判断・表現」に改められている。

これを受けて社会科では、社会的な見方や考え方を養うことを一層重視し、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの言語活動に関わる学習を一層充実させていく方向性が示されている。しかし、実際に授業の中で言語活動を行う場合、どこをどのように工夫・改善していけばよいのか分からず、試行錯誤を繰り返し授業に臨む場合が少なくない。

そこで、本研究では県総合教育センターの研究テーマを受けて、標記のテーマの下で2年間実践研究を行った。昨年に引き続き本年度も歴史的分野に絞り、第2学年の単元名「産業の発達と幕府政治の動き」で、全8時間扱いの単元で実証授業を行った。思考力・判断力・表現力の育成は、継続的に行われるべきであるという考えから、昨年に引き続き同単元内の「文化」についての学習内容の関連に注目し、評価規準及び「判断基準」を設定して、効果的・効率的な指導と評価の在り方について研究を進めた。

II 研究の実際

1 教材観、生徒観、指導観

(1) 教材観

本単元では江戸時代の半ばから後半にかけての時期を学習する。この時期は安定した社会が続く中で、産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されていく時期である。特に、農業生産力が向上し、商品作物の増産や手工業が発達した。しかし、農村が貨幣経済の波にのみ込まれてしまい、従来の財政的な基盤としての農村の機能が低下した。

また、対外的には欧米諸国が急接近し始め、政治も動揺する中で、幕府や諸藩は財政的に苦しい状態に陥り、財政改革が緊急かつ切実な課題となっていく。そこで、幕府は8代将軍徳川吉宗による享保の改革、老中松平定信による寛政の改革、田沼意次による重商主義政策、そして老中水野忠邦による天保の改革などを行い、幕府財政の立て直しを図ろうとした。また、地方では儉約策と商品作物の奨励策を行って、藩財政を立て直すために努力した。しかし、幕府は財政を立て直すことができず、改革は失敗に終わる。その一方で、大阪・京都・江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されていく。そして、町人の間では衣食住、年中行事、祭礼など、現在につながる生活文化が生まれ、広まっていった。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、地理的分野よりも歴史的分野の学習に興味をもち、歴史資料を読み取ることが好きである。授業中に挙手をして教科書を読んだり、教師からの簡単な質問に対しては、積極的に答えられる生徒が比較的多い。しかし、自分の考えを発表したり、話合いに意欲的に参加したりすることは少し苦手である。なお、昨年に引き続き授業を担当している生徒が28人在籍しているため、課題解決的な学習において、歴史資料から情報を読み取って解釈したり、歴史的事象について説明したりすることは、全体的に苦手意識をあまり感じていない雰囲気がある。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては昨年度行った研究を踏まえ、まず、基本的な歴史資料の読み取りの指導を引き続き行う。そして、読み取った内容が授業のまとめの記述に生かされるような場面設定を行う。本単元では同じ江戸時代に栄えた元禄文化と化政文化を学習する。その際、元禄文化の学習で身に付けた文化の捉え方と身に付けた知識を、後の化政文化の学習に生かすようにする。その結果、文化に対する一貫した捉え方を身に付けるだけでなく、習得した知識を比較・考察することで、同じ江戸時代でも時代背景やその特色に違いがあることに気付かせたい。また、生徒の思考の広がりや深まりを見取っていくために、単元の評価規準を基に「判断基準」を作成し、これを活用して事後指導に生かしていくようにする。このような指導を計画的に進めていくことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育み、歴史的なものの見方・考え方を身に付けさせていきたいと考える。

2 本単元の評価規準、指導・評価計画

(1) 単元の評価規準「産業の発達と幕府政治の動き」

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
産業と交通の発達、町人文化、江戸の政治改革と政治の行き詰まりや、新しい学問と思想の動きに対する関心を高め、意欲的に追究している。	産業と交通の発達や江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まり、新しい学問と思想の動き、そして江戸時代の文化の特色とそれらを生み出した社会背景について、多面的・多角的に考察している。	産業と交通の発達、町人文化や地方の生活文化、江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まり、新しい学問と思想の動きなどに関する諸資料を活用して、それらの特色を捉えている。	産業と交通の発達や文化の特色、幕府政治の行き詰まりと諸改革の必要性、新しい学問と思想が誕生した背景などについて、具体的な事例を通して理解している。

(2) 単元の指導・評価計画 (全8時間)

時	学習内容	ねらい・言語活動	評価の観点				評価規準等【観点】
			関	思	技	知	
1	○ 農業や諸産業の発達 ・ 農業の進歩 ・ 諸産業の発達 ・ 交通路の整備と海運業の発達	・ 農業の進歩や諸産業の発達の様子を調べ、幕府や藩が産業の発達を奨励した理由を考える。 〔読み取り〕, 〔解釈〕 ・ 産業, 交通の発達で貨幣経済が進展し, 町人の力が増したことを理解する。 〔読み取り〕, 〔説明〕	●			●	・ 江戸時代の産業の様子について関心を高め, 身近な地域の郷土資料などを利用して意欲的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・ 産業, 交通の発達によって貨幣経済が進展し, 財力を付けた町人の力が増していったことを理解し, その知識を身に付けている。 【知識・理解】
2	○ 都市の繁栄と元禄文化 ・ 三都の繁栄 ・ 元禄の学問と文化	・ 三都をはじめとして, 江戸時代に都市が発達した理由を政治や経済の仕組みから考える。 〔読み取り〕, 〔解釈〕 ・ 綱吉の政治の特色を理解し, また文学や浮世絵の作品などからこの時期の文化の特色を考える。 〔読み取り〕, 〔解釈〕, 〔説明〕			●		・ 江戸時代に都市が発達した理由を, 幕府や藩の政治の仕組み, 物資の流通などの資料から読み取り, 解釈している。 【技能】 ・ 元禄文化は上方を中心に, 大商人や町人が担った, 現実的で人間味が豊かな文化であることを, 時代背景を押さえながら文学作品などを取り上げて説明している。 【思考・判断・表現】
3	○ 享保の改革と社会の変化 ・ 享保の改革 ・ 貨幣経済の広がり ・ 百姓一揆と差別の強化	・ 幕府政治の改革が必要になった理由を, 貨幣経済の広がりなどから考える。 〔読み取り〕, 〔解釈〕, 〔説明〕 ・ 幕藩体制の基盤がゆらぎ, 百姓一揆が起きたことや, その中で差別が強化されたことに気付く。 〔読み取り〕, 〔解釈〕		●		●	・ 幕府の政治改革の影響について, 幕府・諸藩・農民などの立場から多面的・多角的に考察し, 適切に表現している。 【思考・判断・表現】 ・ 「百姓一揆・打ちこわしの発生件数」から社会の様子と変化を読み取り, 解釈している。 【技能】
4	○ 田沼の政治と寛政の改革 ・ 田沼の政治 ・ 寛政の改革 ・ 財政難に苦しむ諸藩	・ 田沼意次の政治と松平定信の政治を比較し, 目的や方法などについて共通点と相違点を考える。 〔読み取り〕, 〔解釈〕, 〔説明〕 ・ ロシアの接近に対する幕府の外交政策を間宮林蔵らの北方探検を通して理解する。 〔読み取り〕, 〔解釈〕, 〔説明〕			●		・ 田沼意次の政治と松平定信の政治を比較し, 政治改革の目的について考察し, 適切に表現している。 【思考・判断・表現】 ・ 「北方探検」を基に, 蝦夷や樺太の探検が行われたことを知り, 幕府の対外関係の在り方を理解している。 【知識・理解】

5	○ 外国船の出現と天保の改革 <ul style="list-style-type: none"> ・ 異国船打払令と大塩の乱 ・ 天保の改革 ・ 雄藩の成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国船の接近とそれに対する幕府の対応について、異国船打払令などから理解する。 (「読み取り」,「解釈」) ・ 大塩の乱, 天保の改革について調べ, 幕府政治にどのような変化が見られたのか考える。 (「読み取り」,「解釈」,「説明」) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国船の接近とそれに対する幕府の対応について年表にまとめ, 幕府に新たな課題が生じたことを理解し, その知識を身に付けている。 【知識・理解】 ・ 大塩平八郎が乱を起こした理由や天保の改革の内容を調べ, 幕府政治が行き詰まっていたことについて考察し, その過程や結果を説明している。 【思考・判断・表現】
6	○ 新しい学問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国学と蘭学 ・ 化政文化 ・ 教育の広がり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国学と蘭学の発達について調べ, 社会の動きとの関連を考える。 (「読み取り」,「解釈」,「説明」) ・ 寺子屋や藩校が各地に設置されたことから教育への関心の高まりに気付く。 (「読み取り」,「解釈」) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国学と蘭学の発達について調べ, 新しい学問や文化が生まれた背景を考察し, 説明している。 【思考・判断・表現】 ・ 資料を基に全国に教育施設が作られていったことを読み取り, 解釈している。 【技能】
7 (本時)	○ 化政文化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 化政文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化政文化の特色を代表的な事例を取り上げて説明する。 (「読み取り」,「解釈」,「説明」) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化政文化は江戸時代の後半, 江戸を中心に中小商工業者や庶民が担った文化であり, 元禄文化とは異なり, 教育の普及とともに学問や思想が発達したため, 非常に多様で社会に対しては批判的な傾向の文化であることを資料を基に説明している。 【思考・判断・表現】
8	○ 単元テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元で扱った資料等を基に歴史的事象の特色や因果関係などを説明する。(「読み取り」,「解釈」,「説明」) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テストを通して本単元に関する補充や深化を図る。 【思考・判断・表現】 【技能】【知識・理解】

3 学習内容の関連を踏まえて設定した「判断基準」(第2時と第7時)

生徒の「思考・判断・表現」を見取るために, まず評価規準を作成した。そして, 具体的な評価の指標として, 第2時「三都の繁栄と元禄文化」と第7時「化政文化」の「判断基準」を作成した。ここでは「おおむね満足できる」状況を示す基準が判断基準Bであり, これを満たした場合はB状況となる。一方でこの状況を満たしていない場合は「努力を要する」C状況となり, B状況にするための補充指導が必要となる。さらに, B状況の生徒に対してもA状況にするために深化指導が必要となる。これらのことを踏まえて, 次ページのように「判断基準」を作成した。





評価規準（思考・判断・表現）	
○ 元禄文化は江戸時代の前半，上方を中心に大商人や町人が担った文化であった。戦乱のない安定した社会の下で商業が発達し，現実的で人間味のある，豊かな文化であることを資料を基に適切に説明している。	○ 化政文化は江戸時代の後半，江戸を中心に中小商工業者や庶民が担った文化であり，元禄文化とは異なり，教育の普及とともに学問や思想が発達したために非常に多様である。社会に対しては批判的な傾向の見られる文化であることを資料を基に適切に説明している。
思考・判断に基づく表現内容（評価の対象）	
○ 学習課題に対して生徒がまとめた内容 （ノート，ワークシート）	○ 学習課題に対して生徒がまとめた内容 （ノート，ワークシート）
判断の要素	
ア 元禄文化の時期と中心地，文化の担い手 イ 元禄時代の社会背景	ア 化政文化の時期と中心地，文化の担い手 イ 文化・文政時代の社会背景
判断基準B	
ア 元禄文化は17世紀末から18世紀初め頃，上方を中心に大商人や町人が担った文化であることを諸資料を基に読み取っている。 イ 元禄文化は江戸幕府の成立によって安定した社会の中で，町人の生活を素材としていたため，現実的で人間味のあるものだったことを資料から読み取っている。	ア 化政文化は19世紀初め頃，江戸を中心に中小の商工業者や庶民が担った文化であることを諸資料を基に読み取っている。 イ 化政文化は藩校や寺子屋などによりも教育が普及し，学問・思想が発達したことで社会に対する批判的精神が高まったことを諸資料を基に読み取っている。
【予想される生徒の表現例】 元禄文化は17世紀末から18世紀初め頃，上方を中心として町人が担った文化である。商工業が発達し，社会が安定していたため，現実的で人間味のある文化が発達した。	【予想される生徒の表現例】 化政文化は，19世紀初め頃，江戸を中心として町人が担った文化である。不安定な社会に対して不満をもち，皮肉やしゃれで風刺することを喜び，様々な文化が発達した。
C状況にある生徒への指導	
○ 判断基準Bを基に補充指導を行う。 ・ ワークシートや授業で使った資料を基に「いつ」、「どこで」、「誰が担った」、「どのような」文化なのかを再確認させる。 ・ 安土桃山時代の文化と元禄文化を比較し，元禄文化は戦乱が無く安定した社会の中で都市を中心に発達した文化であることを略年表を使って確認させる。	○ 判断基準Bを基に補充指導を行う。 ・ ワークシートや授業で使った資料を基に「いつ」、「どこで」、「誰が担った」、「どのような」文化なのかを再確認させる。 ・ 元禄文化と化政文化を比較し，化政文化の頃には江戸で栄えた文化が地方にも広がっていたことを授業で使った資料を基に確認させる。
判断基準A	
【判断基準Bに加えて】 ○ 元禄文化では，上方において歌舞伎や人形浄瑠璃，文学作品，浮世絵などが作られたことを具体的に詳しく説明している。	【判断基準Bに加えて】 ○ 化政文化では，江戸を中心に小説や俳諧，川柳などの文学や浮世絵などが発達し，落語や大相撲などの娯楽や旅行なども行われ，やがて地方に広がっていったことを具体的に詳しく説明している。
B状況にある生徒への指導	
○ 判断基準Aを基に深化指導を行う。 ・ 元禄文化で活躍した人物について，詳しい情報を提示し，理解を促す。 ・ 元禄文化を象徴する人形浄瑠璃や歌舞伎等を映像で視聴させ，現実的で庶民が共感した文化であったことを捉えさせる。	○ 判断基準Aを基に深化指導を行う。 ・ 化政文化で活躍した人物について，詳しい情報を提示し，理解を促す。 ・ 浮世絵は，ヨーロッパの画家であるゴッホに影響を与えたこと。また，落語や大相撲，歌舞伎などは今日の日本にしっかり受け継がれていることに気付かせる。


4 文化を読み取る視点と各文化のキーワード一覧

設定した評価規準と「判断基準」を基に生徒の文化に関する記述を評価する場合、生徒の記述によっては模範解答を読み直して評価したり、見落としがないか答案を何度か読み返したりするなど時間が必要以上にかかることがある。この課題をできるだけ解消するために、評価する際のポイントになる語句を具体的なレベルでピックアップして一覧表を作成し、実際に活用した。

	桃山文化	元禄文化	化政文化
いつ	16世紀後半	17世紀末～18世紀初	19世紀初
どこで	京都・安土・大阪など	<small>かみがた</small> 上方（京都・大阪）	江戸→全国へ
誰が	大名・大商人	大商人・町人	江戸の町人
どのような	<p>・ 豪華で壮大な文化</p> <p>＜背景＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業や貿易がさかん ・ 南蛮貿易の流入 	<p>・ 現実的で人間味の豊かな文化</p> <p>＜背景＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の安定 ・ 商人の活発な活動 	<p>・ 皮肉やしゃれによる風刺が喜ばれ流行</p> <p>＜背景＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の普及と学問の発達 ・ 幕府政治の動揺 ・ 不安定な社会情勢
具体的に	<ul style="list-style-type: none"> ○ 姫路城の天守閣（平城） ○ 唐獅子図屏風（金箔） ○ 西本願寺書院（欄間） ○ 千利休の妙喜庵 ○ 歌舞伎図巻 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌舞伎を楽しむ人々 ○ 邸内遊楽図屏風 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポルトガル→カルタ遊び ○ 天草版『平家物語』など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 浮世草子（井原西鶴） ○ 人形浄瑠璃（近松門左衛門） ○ 俳諧（松尾芭蕉） ○ 装飾画（俵屋宗達） ○ 浮世絵（菱川師宣） ○ 歌舞伎（市川團十郎、坂田藤十郎） ○ 年中行事の定着など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東海道中膝栗毛（十返舎一九） ○ 南総里見八犬伝（滝沢馬琴） ○ 浮世絵（風景画，美人画） <ul style="list-style-type: none"> ・ 東海道五十三次（歌川広重） ・ 富嶽三十六景（葛飾北斎） ・ 婦女人相十品（喜多川歌麿） ○ 俳諧（与謝蕪村・小林一茶） ○ 川柳（柄井川柳），狂歌 ○ 歌舞伎，落語，相撲など
留意点	<p>① 「判断基準」はそれぞれの文化について、「いつ」、「どこで」、「誰が担い」、「どのような」の四つの視点を持ち、前に学習した文化と比較した記述がある場合、「おおむね満足できる」状況（B状況）とする。</p> <p>② 単純な表記の間違いを除き、四つの視点のうちどれか一つでも視点が欠けていたり、誤った視点に立って記述していたりする場合は、「努力を要する」状況（C状況）とする。</p> <p>③ その文化の特色をより豊かに説明するために、四つの視点に立ち、前に学習した文化と比較しながら、具体的な事例を用いて記述している場合は、「十分満足できる」状況（A状況）とする。</p>		

5 指導展開

段階	時間	学 習 活 動	● 指導上の留意点 ◆ 評価
導 入	3 分	1 江戸の様子を描いたパネルを見る。 	● 化政文化の頃の江戸の様子を描いたパネルを見せて、興味・関心をもたせる。
		2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">江戸時代後半（文化・文政の頃）にはどのような文化が栄えたのだろうか。</div>	
展 開	1 分	3 文化の捉え方の手順を確認する。	● 「いつごろ」、「中心はどこで」、「誰が担い」、「どのような」ものが作られたのかを順に読み取っていくことを確認させる。
	10 分	4 略年表を完成し、時代背景と文化・文政の時期を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学問の発達 ・ 教育の普及 ・ 幕府政治の動揺 ・ 不安定な社会 	● 江戸時代の後半は、蘭学や国学などの学問が発達し、各地で藩校や寺子屋が作られて教育が普及したことを確認させる。 ● 18世紀から19世紀にかけて主なできごとを確認し、時代背景として幕府による政治改革の失敗や外国船の来航、ききんの発生など幕府政治の動揺する状況や不安定な社会情勢を捉えさせる。
	10 分	5 化政文化で流行していた資料を見て、特色を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 写楽の役者絵（浮世絵） ・ 歌川（安藤）広重の風景画（浮世絵） ・ 俳句と川柳、狂歌 	● 化政文化は江戸の町人の間で流行っていたことが全国的に広がっていったことに気付かせる。 ● 幕府政治に対する不満や不安定な社会に対する不安などから、川柳や狂歌などでは世の中に対して皮肉やしゃれで風刺していたことに気付かせる。
	10 分	6 化政文化で流行っていたことを教科書や資料集を使って調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 十返舎一九の『東海道中膝栗毛』 ・ 葛飾北斎の風景画（浮世絵） ・ 貸本屋 ・ 落語の寄席 ・ 相撲 	● 化政文化は実に多様であり、江戸などの都市から地方に広がっていったことを捉えさせる。 ● 化政文化を担ったのは町人であり、現在でも文化として残っているものがあることに気付かせる。

終 末	15分	7 化政文化について、これまでの元禄文化と比較しながら特色をまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ● 文化の捉え方の手順に従い、本時で分かったことと元禄文化の特色を再確認した後でまとめさせる。 ● 「化政文化は」で書き始め、元禄文化の特色と比較しながら記述させる。
		<p>◆ 化政文化は、19世紀初め頃に江戸を中心に庶民（町人）が担った文化である。社会が安定し現実的で人間味のある元禄文化と異なり、新しい学問の発達や教育の普及を背景に、幕府政治の動揺や不安定な社会に対して、皮肉やしゃれによる風刺が喜ばれた文化である。</p> <p>代表的なものとして十返舎一九の小説『東海道中膝栗毛』や滝沢馬琴の『南総里見八犬伝』、歌川（安藤）広重の『東海道五十三次』や葛飾北斎の『富嶽三十六景』の浮世絵、俳諧では与謝蕪村や小林一茶が活躍した一方で、川柳や狂歌も流行した。また、歌舞伎や落語、相撲の興行も人気を集め、都市で発展した文化が次第に地方に広がった。</p>		
	1分	8 次時予告を聞く。		● 次時は化政文化の確認テストをした後、単元テストを実施することを予告する。

6 考察「判断基準」（第2時と第7時）

(1) 「判断基準」を用いて評価した生徒の状況

評 価	桃山文化(6/17)	第2時の生徒の評価(7/8)	第7時の生徒の評価(9/16)
「A：十分満足」	16人	22人	16人
「B：おおむね満足」	13人	13人	17人
「C：努力を要する」	7人	1人	3人

第2時の元禄文化については、資料を基に「いつ」、「どこで」、「誰が担い」という要素を明らかにして、それぞれを組み合わせ、前単元で学習した桃山文化と比較させながら、「どのような」部分を記述させた。「判断基準」による評価では、おおむね満足できる「B状況」以上がほとんどで、努力を要する「C状況」の生徒は1人であった。これは前単元で桃山文化の特色について記述する学習を経験しており、生徒は提示された資料を読み取り、文化の特色を記述する活動に慣れてきたことを表している。また、桃山文化が戦乱の時代を背景に発達したことに対して、元禄文化が戦乱のない平和な時代を背景としたものであったことから、それぞれの内容を比較しやすかったからではないかと思われた（参考までに、桃山文化の学習で「C状況」となった7人のうち、6人は今年初めてこういった学習を行った生徒であった。）。

第7時の化政文化については、まず「いつ」、「どこで」、「誰が担い」という要素を用いて特色をまとめさせるとともに、化政文化が新しい学問の発達や教育の普及を背景に、幕府政治の動揺や不安定な社会に対して、皮肉やしゃれによる風刺が喜ばれた文化であったことを元禄文化の状況と比較しながら、「どのような」部分を記述させた。「判断基準」による評価では、「A状況」が6人減り16人、「B状況」が4人増えて17人となった。学級の約9割の生徒が「B状況」以上であった。一方、「C状況」の生徒も2人増えて3人となった。このように

なった原因の一つに、「比較」することの難しさがあつたと考えられる。同じ江戸時代の中での「比較」ということで、時代背景の違いを十分に理解できず、イメージをもちにくかつたようである。また、化政文化の具体例の紹介についても、文化と作者・作品を正しく結び付けられず、元禄文化のものと同化する答案も見られた。この後、補充指導を行い、復習テストを実施したところ、「B状況」が5人で、他は全員「A状況」に改善した。

このように、前年から1年間「判断基準」を用いて学習指導を行ってきた結果、少しずつ効果が表れてきていることが分かる。

(2) 第7時「化政文化」における指導

右の写真は、「化政文化」の学習を終えて事後指導を行った時の板書の様子である。



補充指導では、まず化政文化（左側）と元禄文化（右側）について、「いつ」、「どこで」、「誰が担い」、「どのような」文化なのか、カードを使って内容を再確認した。次に「比較」する部分は、「どのような」の部分であることを指摘し、その時代背景の違いまで指摘した。そして、化政文化の具体例については、実証授業で使った写真やパネル資料で再度確認させた。

深化指導としては、当時の浮世絵が海を渡りヨーロッパの画家に影響を与えたことや、今日の日本に伝わる落語や相撲、歌舞伎などの原型は、化政文化の頃に作られていたことを、事例を挙げて説明した。

○ 「C：努力を要する」状況の例

化政文化は、19世紀初め頃、江戸を中心として町人や庶民が担った文化である。元禄文化とは異なり、士人などが起こしたのではない不安定な社会であった。

この生徒の記述には、判断基準Bの「ア」の化政文化の時期、場所等（「いつ」、「どこで」、「誰が担った」）については説明がある。しかし、「イ」の社会に対する批判的精神が高まっていたという背景についての説明はない。したがって、「C状況」に留まると判断した。記述すべき内容をノートやワークシートで再度させるなどの補充指導を行った後、この生徒はその後の復習テストで「B状況」となった。

○ 「B：おおむね満足できる」状況の例

化政文化は、19世紀初めに江戸を中心として江戸から全国へ広がり、町人や庶民が担った、皮肉や諷刺、風刺(批判的)精神の文化である。
化政文化は、元禄文化と異なり、士人を中心としていないこと、元禄文化の社会は安定しているが、化政文化の社会は不安定である。

この生徒の記述には、判断基準Bの「ア」の化政文化の時期、場所等（「いつ」、「どこで」、「誰が担った」）については説明がある。また、元禄文化と化政文化との比較もあり、「どの

ような」の記述も見られる。イの社会に対する批判的精神が高まっていたという背景についての説明もある。したがって、「B状況」と判断した。しかし、この生徒の記述は元禄文化と化政文化の比較が不十分であり、もう少し詳しく説明させたり、「風刺」の書き間違いを改めさせたりする必要がある。これらを踏まえて授業後に深化指導を行った。この生徒はその後の復習テストで「A状況」となった。

○ 「A：十分満足できる」状況の例

化政文化は、19C初めごろ、江戸を中心に町人が担った文化である。社会の安定していた頃と比べて、化政文化は、社会が不安定で、幕府政治の動揺もあり、皮肉やしゃれで、批判的な精神のある文化である。江戸を中心としていたが、のちに全国に広がった。例としては、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』や、相撲・落語などがあ

この生徒の記述には、判断基準Bのアの化政文化の時期、場所等（「いつ」、「どこで」、「誰が担った」）については説明がある。イの社会に対する批判的精神が高まっていたという背景についての説明もある。したがって、「B状況」以上と判断した。さらに、化政文化の頃に書かれた十返舎一九の『東海道中膝栗毛』や、庶民に人気のあった相撲や落語についても説明し、相撲・落語などの文化が全国に広がったことの説明があるため、「A状況」であると判断した。授業後、この生徒は化政文化の国内・海外への影響まで記述することができた。

III 成果と課題

1 研究の成果

- ・ 単元の中で文化の学習に絞り、「判断基準」を具体的に作成して評価した結果、評価活動が過度に煩雑にならず、事後の指導に生かすことができた。
- ・ 授業の中で文化を読み取っていく視点を「いつ」、「どこで」、「誰が担い」、「どのような」のようにもち、前に学習した文化の内容と比較しながら特色を記述させるさせることは、生徒に歴史的事象の見方を身に付けさせることにつながった。文章を書くことが苦手な生徒でも一定の記述ができるようになり、1年以上続けていくと、かなり効果があることが分かった。
- ・ それぞれの時代の文化の特色が大きく変化しているのは、時代背景が異なるからである。これを理解させるために「比較」という手法は非常に有効であったと考える。この「比較」の手法を歴史的分野以外の様々な単元の学習において教師が意図的に取り入れることで、生徒の思考・判断・表現する力は確かに養われていくと考える。

2 研究の課題

【「判断基準」の設定について】

- ・ 学習内容と生徒の実態を考慮して「判断基準B」を設定したが、生徒は資料を読み取って記述することに慣れてくるので、第1学年と第2学年では、「判断基準」の設定の仕方を見直す必要がある。
- ・ 生徒が身に付けた学習内容を過去の知識と「比較」することは、非常に重要な思考活動であ

る。しかし、生徒によっては非常にハードルの高い学習活動となる。そこで、どの部分を比較するのか、教師が生徒に対して明確に指示することが重要である。

【文化の学習について】

- 文化の学習は、知識の注入やトピックの羅列になりがちなので、事前に提示する資料については「この文化の象徴的なものとなっているか」という視点で吟味し、精選して提示する必要がある。
- 文化の学習内容は、教科書では見開きの中の一部として他の学習内容と合わせて記載されている場合があり、文化を単独で学習するように考えられていない。また、場合によっては学習する順序を入れ替えた方がよいこともある。今後、文化の学習をより一層充実させるために、現行の指導計画を再検討する必要がある。
- 文化の学習は、その時代の特色（背景）をしっかりとおさえなければ十分に理解できないため、総合的な知識を必要とするものであることに気付かせたい。また、文化の学習を単元全体の学習内容を復習するきっかけとしても捉えさせたい。

「学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成」
 ～第3学年 政治・経済「パレスティナ問題」における実践を通して～

鹿児島南高等学校
 教諭 池之上博秋

I 研究実践の目的

標題の「研究のねらい」は、「思考力・判断力・表現力の継続的な育成を目指し、学習内容の関連を踏まえた『判断基準』を設定することで、より効果的・効率的な指導と評価の在り方を明らかにする」ことである（「平成26年度調査研究について」教科教育研修課）。また、本年度の研究の概要の中で、「学習内容の関連」について「学習内容を関連させる観点を踏まえ、学習内容の関連を図る範疇を設定するとともに、その際の指導のポイントを明確にする」とし、既習単元の振り返りとの関連を図った本単元の見直しや、本単元の目標達成に向けた習得と活用、次単元の見通しとの関連を図った本単元の振り返りをポイントとして指導を工夫するよう求めている。さらに、学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定に基づく指導と評価の一体化を求めており、具体的には思考力・判断力・表現力が最も発揮される言語活動や単位時間を想定し「判断基準」を設定して評価した上で、補充指導や深化指導を行うことが大切であるとしている。

社会・地歴・公民科においては、「問題解決的な学習の中で、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する必要がある、単元あるいは一単位時間の最初に設定した問題に対する結論を導く過程において、読み取り、解釈、説明、論述等の言語活動を充実させることが重要である」としている（「平成26年度研究協力員研修会社会・地歴・公民科打合せ資料」より）。

そこで、本検証授業では、前述の研究の方向性に基づき、高等学校公民科において授業を行い、その成果と課題を検証することとした。

II 研究の実際

1 教材観、生徒観、指導観

(1) 教材観

本時までには、生徒は、国際社会の成立の過程や、国際社会の安全保障の在り方、国際連合の仕組みと課題、冷戦構造など幅広く国際関係や国際政治に関する学習を行っている。国際社会では、多くの対立や紛争が発生するが、国連をはじめとする国際機関を中心として人類の平和的共存のための調整や協調のための努力が必要である。しかし、世界各地では地域紛争や民族紛争が絶えず発生しており、最近では特にウクライナ情勢やパレスティナ情勢が混迷を深めている。そこで本単元では、最新の国際情勢をとらえて、第1章第5節の「現代の国際政治」の既習事項を生かし、教科書第3章の「現代社会の諸課題」の中から「パレスティナ問題とは何か」を選択して学習する。また、教材として、最新の新聞記事を活用し、資料を活用して自ら社会情勢を分析し、思考・判断させることをねらう。

(2) 生徒観

3年2組は、普通科の文系のクラスであり、大学入試に対応した高い学力の養成を目標としている。クラスの雰囲気は穏やかであり、授業態度もよく、授業に対する姿勢も意欲的である。定期考査の成績も全体として良好である。しかし、知識・理解に関する学力は高いものの、教科書の内容について自分で思考・判断し、意見を表現する力は十分とはいえない。したがって、今後、思考力・判断力・表現力を高めるような指導の工夫を図る必要があると考える。

(3) 指導観

本単元においては、国際政治に関する基礎的・基本的な知識の理解だけではなく、国際社会の構成員として、国際政治についてのより深い見方や考え方を身に付けさせることをねらい、具体的な個別事例を提示し課題を追究させることで、国際政治に対する意識を高めたい。本時においては、パレスティナの最新の情勢を新聞記事から読み取らせ、国際社会がパレスティナ問題の解決のために、どのように取り組むべきかを積極的に追究させ、国際的な社会的事象に対し、積極的に思考・判断する力を身に付けさせる。その際に、前時までの学習内容との関連を意識させ、国際政治についての既習事項に基づき思考・判断・表現させると同時に、論述による言語活動の状況を「判断基準」に基づき評価し、補充・深化指導を行う。

2 本単元の評価規準，指導・評価計画

(1) 単元名 パレスティナ問題とは何か

(2) 単元の構成

第1章 現代の政治

第5節 現代の国際政治

- ① 国際関係と国際法
- ② 国際社会の組織化 地域紛争と難民問題
- ③ 国際政治の動向
- ④ 国際政治の課題
- ⑤ 地球市民社会の形成と課題
- ⑥ 地球環境問題
- ⑦ 地球社会における日本の役割

第3章 現代社会の諸課題

第1節 日本社会の諸課題

第2節 国際社会の諸課題

- ② パレスティナ問題とは何か (本時)

本時は、第1章第5節「国際政治の課題」における④「国際政治の課題」の「地域紛争と難民問題」で学ぶ地域紛争の一つであるパレスティナ問題をより深く追究するために、第3章第2節の中から「②パレスティナ問題とは何か」を選択し、問題解決的な学習を行う。第3章はいくつかの項を選択して学習を行う単元の構成となっている。

(3) 単元の評価規準 「パレスティナ問題」

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の国際政治に対する関心を高め、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追究し、国際社会や日本の役割を積極的に考えようとしている。	国内政治とは異なる国際政治の特質や、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因について多面的・多角的に思考し、国際社会や日本の役割について判断した結果を適切に表現している。	現代の国際政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、国際紛争の諸要因について、必要な情報を主体的に活用している。	民族問題、領土問題の解決には、平和的な解決に向けて広い視野に立って国際社会が継続的に努力する態度が必要であることを理解し、その知識を身に付けている。

(4) 指導計画 (全16時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点
1 時 か ら 16 時	<p>第5節 現代の国際政治</p> <p>① 国際関係と国際法〔第1時〕 ウェストファリア条約の締結による主権国家設立、国際法の確立の経緯を理解し、国際法の役割と限界について理解する。</p> <p>② 国際社会の組織化〔第2～3時〕 勢力均衡と集団安全保障の考え方の違いや、国際連盟や国際連合の設立によって、国際社会が国際平和を目指して努力してきたことを理解する。 国際連合においてPKOを中心に国際平和維持のための活動が展開されていることや、その機能と限界について理解する。</p> <p>③ 国際政治の動向〔第4～6時〕 冷戦時の国際情勢を理解し、ベルリン危機、キューバ危機などの事例を通してその本質を理解する。1950～60年代の冷戦の雪解けの状況や、第三世界の動向、軍縮への動きについて理解する。新冷戦期から冷戦の終焉までの国際社会の動きや、SALT I・IIやSTART I・IIなどの核軍縮の動きを理解する。</p> <p>④ 国際政治の課題〔第7～13時〕 核軍縮の動きに焦点を当て、国際司法裁判所の勧告的意見や核拡散防止条約等の国際社会の具体的な取組を通して理解する。 地域紛争と難民問題については、その原因と特徴について理解させる。様々な民族紛争を紹介する中で、特に典型的な事例を取り上げ、その内容と解決に向けた方策について生徒に考える。 【本時】「パレスティナ問題とは何か」〔第13時〕</p> <p>⑤ 地球市民社会の形成と課題〔第14時〕 冷戦後の国際社会の現状と課題について、国際テロの頻発など新たな課題が発生していることを理解する。</p> <p>⑥ 地球環境問題〔第15時〕 地球環境保護が、国際平和と同様に地球上の大きな課題であることを具体的に理解する。特に、地球環境保護のための国際的な取組について具体的に理解する。</p> <p>⑦ 地球社会における日本の役割〔第16時〕 戦後の日本外交や、わが国の安全保障をめぐる状況について俯瞰させ、わが国が国際社会においてどのように動いていくべきかについて考える。</p>	<p>○ 国際法と国内法の性質の違いについて理解させる。</p> <p>○ 国際連盟が世界大戦を防げなかった理由や、それを踏まえて国際連合がどのように改善されたのかを理解させる。</p> <p>○ PKOの第1世代から第3世代への変化の内容について事例を通して理解させる。</p> <p>○ 冷戦時の東西対立の構造について政治、経済、軍事等多角的に理解させる。 軍縮の動きについては、冷戦から新冷戦までの国際社会の動きと併せて理解させる。</p> <p>○ 核兵器の脅威については唯一の被爆国であるわが国が国際社会で訴え続けることの大切さを理解させる。</p> <p>○ 通常の戦争とは異なる性格をもつことを注視させ、その解決が難しい背景を具体的な事例を取り上げ追究させる。</p> <p>○ 国際問題の解決に貧困の克服が大きな鍵を握ることに気付かせる。</p> <p>○ 地球環境問題の個別的内容だけでなく、解決に向けた国連の取組等を中心に理解させる。</p> <p>○ 国際社会についての学びのまとめとして、わが国が国際的にどのように行動するか自分の意見をまとめさせる。</p>

3 学習内容の関連を踏まえて設定した「判断基準」(前単元と本単元)

前単元 → 本単元

評価規準(思考・判断・表現)	
○ 国内政治とは異なる国際政治の特質や、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因について多面的・多角的に追究し、考察したことを適切に表現している。	○ 国際社会の諸問題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、考察した内容を適切に表現している。
思考・判断に基づく表現内容(評価の対象)	
○ 記述の方法 ワークシート(ノート)	○ 記述の方法 ワークシート(ノート)
判断の要素	
ア 国際社会と国際法 イ 国際連合と平和の維持 ウ 国際社会の情勢	ア 地域紛争の歴史的経緯 イ 国際社会との関係 ウ 解決に向けた方向性
判断基準B	
ア ウェストファリア会議で主権国家が成立し、国際社会が形成されていき、国際法が発達したこと イ 国際連合を中心として国際社会が平和の維持に努めていること ウ 冷戦を経て、軍縮が進む一方で、地域紛争、民族紛争が多発していること	ア それぞれの地域紛争の背景に、歴史的、民族的、地理的な課題が存在すること イ 大国の一方的な外交政策や、戦争の結果問題が複雑化していること ウ 解決のために大国や国際社会が解決に積極的に取り組むこと
[予想される生徒の表現例] ウェストファリア条約以降、主権国家が国民国家として成長していき、国際社会が形成された。国際連盟の失敗を踏まえて、国際連合が世界の安全保障で重要な役割を果たしている。しかし、冷戦以後、地域紛争や民族紛争が多発している。	[予想される生徒の表現例] パレスティナ紛争は、パレスティナ人が居住する地域にユダヤ人国家イスラエルが建国されたことで発生した。しかし、イギリスの二重外交など大国の介入により問題が複雑化し解決を困難にしている。解決のために国連を中心として国際社会が対応するべきだ。
C 状況生徒への補充指導	
ノートや、資料集の該当部分を示し、国際社会の特徴と、歴史的な経緯について確認させ、国際社会の課題について見いださせる。	ノートや、資料集の該当部分を示し、パレスティナ紛争の歴史的経緯について年表等で確認させ、その建国の経緯について確認させる。
判断基準A	
国内政治とは異なる国際政治の特徴について理解しており、国際平和の維持がなぜ困難なのかを考察している。	パルファ宣言やマクマホン宣言等、パレスティナ問題が大国の思惑により問題がこじれていった経緯等、問題の背景について詳しく考察している。問題の解決について、国連のPKO、UNHCR等の具体的な活動や、難民対策などについて具体的な提案がある。
B 状況生徒への深化指導	
具体的な事件、事例を踏まえて考えるようにさせ、国際社会の変化とその特徴について具体的に考察させる。	パレスティナ問題がなぜ解決が難しいかについて、大国の対応や、宗教上の対立など具体的な背景から理由を考察させる。また、解決策について既習事項を生かし具体的に述べるよう促す。

4 指導法の工夫

民族紛争、地域紛争の解決が困難な背景として、歴史的、民族的、地理的な課題が交錯していることが挙げられる。パレスティナ紛争はその典型的な事例であり、1単位時間において紛争の背景について効率よく提示し理解させる必要がある。そこで、本時においてはワークシート1を作成し活用することで、ユダヤ民族とパレスティナ人の対立の背景と対立軸を効果的に浮き彫りにすることとした。また、この工夫は単に知識をワークシート上で整理するだけではなく、ユダヤ民族側、パレスティナ人側それぞれに共感できる事実があることを知らせ、ホロコーストや中東戦争などの歴史的にも衝撃的な出来事を通して生徒の心を揺さぶり、紛争解決のための思考に対する関心・意欲を高めることをねらった。**【ワークシートの工夫（視点1）】**

また、この紛争が過去のものではなく、2014年7月からガザ地区を中心として混迷を深めていることを新聞記事から読み取らせることで、地域紛争、民族紛争の問題の根深さを実感させる。そして、現在の地上戦の様子や、それに対する国際社会の動きなどをより具体的に把握させた上で、この問題の解決法について、現在の世界情勢や既習事項を踏まえて思考することを促し、ワークシート2に論述させた。**【既習事項を生かした授業展開（視点2）】**

生徒がワークシート2に論述する際には、指導者は机間指導の場面において、評価規準で設定した「思考・判断・表現」の学習状況をより分析的・具体的に表した尺度である「判断基準」を活用し、A・B・Cそれぞれの状況の生徒に対して適切な指導を行う。また、その論述に対する評価は、「判断基準」を用いて思考力・判断力・表現力を効果的に見取ることとし、それに基づく補充・深化指導を行う。その際には、「判断基準」は既習事項との関連を特に意識して設定し、論述が既習の知識を生かして思考・判断されているかを注視することとした。**【既習事項を生かした評価(視点3)】**

5 指導展開

(1) 日時、教材等

- 実施日 平成26年9月18日(木) 4時間目
- 対象 3年2組(計40人)
- 教科書 『政治・経済』(東京書籍)
- 補助教材 資料集『最新図説 政経』(浜島書店)

(2) 本時の目標

国際政治についての既習事項を生かして、パレスティナ紛争の歴史的背景と現状について理解し、その解決策を追究することで、地域紛争、民族紛争の特徴を把握する。その上で、国際社会が平和で安定するために、国際社会やわが国がどのように動いていくべきかについて考察する。

(3) 本時の評価規準

国際政治についての既習事項を生かして、パレスティナ紛争の歴史的背景と現状について理解した上で、その解決策について深く考察し、その結果を適切に表現している。

【思考・判断・表現】

(4) 実際

過程	学習活動	時間	指導上の留意点 ※【評価の観点】	資料等
導入	前時までの、地域紛争、民族紛争の学習を振り返り、その解決が困難だった背景を再認識する。	5	本時の目標を記述させる。 イスラエルの地図上の場所を確認する。教科書の「戦車に投石する少年の写真」を確認させる。	教科書P.202 ワークシート
展開 I	ワークシートの、 1 ユダヤ民族の苦難の歴史 において、ユダヤ教の特徴や、民族としての歴史的状況、ナチスのホロコーストの歴史について資料を通して把握し、シオニズム運動との関連を考える。  ワークシートの、 2 大国に翻弄されるユダヤ民族 をまとめ、ユダヤ民族が翻弄された原因を大国による外交面から考える。 ワークシートの、 3 怒るパレスティナ人 において、第一次から第四次までの中東紛争の経緯を把握し、国際的な紛争につながった事実を理解する。 ワークシートの、 4 歴史的な解決は実現するのか？ においてオスロ合意がどのような役割を担っているかを考える。	30	倫理、世界史等の既習事項であるユダヤ人の苦難の歴史の概要からその特徴をつかませるようにする。ホロコーストが、シオニズム運動が盛んになる大きな契機となったことを理解させる。 大国が、民族紛争の遠因をつくっていく過程を理解させるとともに、ユダヤ民族が自国の領土を要求する強い意志をもち続けてきたことを確認させる。 詳細な歴史的内容に踏み込みすぎず、軍事的に優位なイスラエル側が着実に領土を拡大していく経過を理解させる。また、アラブ側が第四次中東戦争において石油戦略に転じ、国際的な紛争の位置付けが変化したことに気付かせる。 和平の当事者の死去により、一気に紛争が混迷の度を深めて行く状況から、対立の根深さを認識させる。	教科書P.202 ワークシート 大判写真 ワークシート 資料集P.162 ワークシート 資料集P.162～163 ワークシート 資料集P.162
展開 II	新聞記事「 ガザ死者150人超 」等の読み合わせを行い、2014年7～8月においても、ガザ地区において紛争が激化し多くの犠牲が出ていることを理解し、その原因を考える。 国際政治の既習事項、新聞記事を活用して、様々な要素が混在する地域紛争であるパレスティナ紛争について、その解決策を考察する。  写真1 新聞活用の場面	10	新聞記事を読んだ上で、既習事項を想起させつつ、生々しい紛争の現状に触れ、なぜいたましい紛争が収まらないのか考察させる。 ワークシートNo. 2に紛争の解決策を記述することを指示し、必要に応じて机間指導を行い、論述の支援を行う。  写真2 机間指導の際、「判断基準」に基づき「補充指導」や「深化指導」を行っている様子	新聞記事プリント ワークシート No. 2
終末	本時まとめ ワークシートの整理	5	国際政治の学びを生かして、今後も世界の平和の維持に関心をもつことの大切さを伝える。	ワークシート

6 検証授業の実際と考察

(1) 導入～展開 I

まず、導入においては、教科書の「イスラエルの戦車に投石しながら逃げる少年たち」の写真を確認させ、戦車の砲身がまっすぐに少年たちに向けられていることを指摘し、少年たちの無謀ともいえるこの行為から本時に学ぶパレスティナ紛争の深刻さを意識付けさせた。

その上で、ワークシート1の **① ユダヤ民族の苦難の歴史**において、ユダヤ民族が前15世紀にパレスティナに定住を開始しながらも1世紀にローマ帝国の厳しい民族弾圧を受けてこの地を追われ世界中に離散した事実と、彼らが宗教的な理由からキリスト教徒から厳しい差別を受けつつも、ユダヤ教を精神的な支柱として耐え続けた事実、金融業をはじめとして著名な学者や芸術家などを輩出した事実をワークシートに整理させた。生徒は、2年次に公民科「倫理」においてユダヤ教とキリスト教を既習しており、「倫理」における源流思想の学びを、歴史の展開に沿って再び理解を深めることとなった。さらに、苦難の歴史の末に、第二次世界大戦においてナチスのホロコーストで600万人もの無実のユダヤ人が殺害された事実をアウシュビッツ強制収容所の大判写真を通して理解させ、「自分たちの国土が欲しい」、「聖地イェルサレムに帰ろう」というシオニズム運動が展開していくことが、ユダヤ人の悲願となっていくことの意味を彼らの心情を推し量りながら理解させていった。

ワークシート1の **② 大国に翻弄されるユダヤ民族**においては、イギリスのバルフォア宣言、マクマホン書簡という大国の身勝手な外交が、ユダヤ人とアラブ人との間の溝を生み出し、結果として国連の「パレスティナ分割決議」を経てイスラエル共和国の建国に至ったプロセスをワークシートに整理させた。この部分では、イギリスが、ユダヤ系財閥の資産をめあてに、ユダヤ民族の「国土が欲しい」という気持ちを利用した外交を展開した経緯を理解させ、大国の民族問題への介入により民族紛争が一層複雑化するその特徴的な性質を理解させた。この部分の学習を通して、パレスティナ問題の解決のために国際社会がどのように対応すべきか思考する視点を得させる。なお、ここまでの展開 I の前半であるワークシート1の **①**、**②** までに、生徒は、苦難の歴史の末にイスラエルを建国したユダヤ人に対して肯定的な雰囲気となった(図1中①)。

次に、ワークシート1の **③ 怒るパレスティナ人**において、イスラエルが圧倒的な軍事力によって数次の中東戦争を通してパレスティナ人を弾圧し、イスラエルの国土を拡大していく過程を確認させた。この部分の学習では、国土を保有したユダヤ人が一転してパレスティナ人を敵とみなし対立が深まっていくことが理解できる。この中東戦争の経緯を整理する過程で、多くのパレスティナ難民が発生し、パレスティナ人のイスラエルに対する抵抗運動「インティファダ」が激化していったことを理解させた。

また、**④ 歴史的な解決が実現するのか?**で、オスロ合意が、和平当事者の死去によりもろくも崩壊していったことを理解させた。ワークシート1の **①**、**②** までで、ユダヤ人がイスラエルを建国した過程に肯定的な意見が大勢を占めた雰囲気が、一転してパレスティナ人が不利な状況に置かれるようになった歴史的な状況の転換に生徒は驚きの表情を浮かべていた(図1中②)。

「いったいどちらに正義があるのか?」という授業者の問いに、生徒は苦悶の表情を浮かべ、解決に向けた道筋が単純なものではないことを感じ取り、懸命に思考する様子が見られた。**ワークシートの工夫 (視点1)**

「政治・経済」ワークシート 3年 組 番 氏 名

○教科書 P202～203 資料集 P162～163

★本時の目標

パレスティナ紛争の背景と現状を理解し解決策を考えよう。

1 ユダヤ民族の苦難の歴史

○ 前 15 世紀に遊牧民のユダヤ民族が(1)パレスティナに定住開始。前 10 世紀ごろ「**② 大卫王**」がエルサレムを中心に繁栄。しかし、1 世紀には、(3)ローマ帝国から厳しい民族弾圧を受け、この地を追われ各地に離散した。

↓

居住地での激しい差別「ユダヤ教徒は(4)イエスを十字架に追いやった」
by(5)キリスト教徒

※彼らを精神的に支えたのが(6)ユダヤ教「最後の審判には唯一神(7)ヤハウェ)がユダヤ人だけに(8)メシア)を遣わし救済してください。」(9) 選民 思想

世界各地で存在感を増すユダヤ民族

○ 激しい差別に負けないためには自分自身の実力が頼り…著名な学者、俳優、資産家を輩出

※ キリスト教が蔑んだ(10)金融業)で成功する者が多く銀行家として活躍!!

(土地を持ってないから農民になれない。公的職業にも就けない。)

WWII の民族最大の迫害

○ ドイツの(11)ナチス)による大量虐殺(12)ホロコースト)、(13)600)万人以上が殺害!

「自分たちの国土が欲しい!」
「聖地エルサレムの(14)シオン)の丘に帰ろう!」(15)シオニズム 運動)

2 大団に翻弄されるユダヤ民族

○ WWI イギリスの(16)二枚舌)外交

1917年「**① バルフォア 宣言**」(一外務大臣)
ユダヤ人へ「パレスティナにユダヤ人の国の建国を約束します」(ロスカイルド家よ戦費を貸して)

1915年「**② マクマホン 書簡**」(一高等弁官)
アラブ人へ「パレスティナはアラブ人の所有だ。」

対立が決定的に!

○ WWII 後 イギリス「困った…(17)国際連合)に任せます」

←アメリカはユダヤ民族支持「(在米)ユダヤ人は票になるがアラブ人は票にならない。」by トルーマン

1947年「**③ パレスティナ分断決議**」 → (18)イスラエル共和国)建国!

賛成 33ヶ国(72%)、米ソ仏 etc... 反対 13ヶ国(28%)、英独 10ヶ国(英など)

3 怒るパレスティナ人(アラブ人) = イスラム教徒

○ 1948年(19)第一次中東戦争)アラブ側からの攻撃

決断は無効だ! → イスラエル側の優勢 国連の停戦勧告で停戦へ

○ 1956年「**第二次中東戦争**」(20)スエズ 戦争)

エジプト(アラブ人)のナセル首相が「スエズ運河(21)国有化)宣言」

→ 英・仏・(22)イスラエル)が反対し、エジプトを軍事的に圧倒。
But 米ソ、世論からの批判があり、英・仏・イスラエル撤退。

○ 1967年「**第三次中東戦争**」

イスラエルが延べ 500 機の戦闘機でエジプトを奇襲!

(23)ゴラン)高原、(24)シナイ)半島、(25)ヨルダン)川西岸を占領 → **パレスティナ地域の 100%以上を占領!**

○ 1973年「**第四次中東戦争**」

アラブ側「イスラエルが撤退しないと(26)石油)生産を 5%以上削減するぞ!」 = (27)石油)戦略

→ **欧米諸国の大混乱**「(28)第一次オイルショック)」

→ 1974 米ソの圧力 国連の(29)停戦決議)をイスラエルに飲ませる。

※ 大量の(30)パレスティナ難民)が発生しつづける! (31)492)万人(2013年まで)

※ イスラエル占領地でのパレスティナ人の抵抗運動「(32)インティファダ)」が激化!

4 歴史的な解決は実現するか?

○ 1993年「(33)オスロ 合意」

イスラエル(34)ラビン)首相 と PLO(パレスティナ解放機構)(35)アラファト)議長

ヨルダン川西岸とガザ地区をパレスティナの(36)自治区)にすることに合意!!

But 1995年 ラビン首相暗殺

2004年 アラファト議長 不審死?

…和平の枠組みが壊れていく…

★ そして 2014年 7~8月のガザ地区の様子は??

現在、ガザを実効支配しているのは、
イスラム原理主義組織(37)ハマース)

図 1 検証授業で使用したワークシート 1

(2) 展開 II

次に、新聞記事「ガザ死者150人超」等の「ガザ地区において対立が緊迫する情勢を伝える新聞記事」(図 2)の読み合わせを行い、ワークシート 1 で整理した事実を想起させつつ、現在でも対立が根深く続いており、特にパレスティナ側に多数の死者が出ている状況を理解させた。(写真 1) その上でワークシート 2 に現在の世界情勢や既習事項を踏まえて、生徒にパレスティナ紛争の解決法について自分の意見を論述するように指示した。ワークシート 2 では、①「パレスティナ紛争の原因は何か?」、②「紛争が深刻化した理由は何か?」、③「①~②を踏まえての、自分の解決策」の順に論述することを求めた。これは、生徒がワークシートで整理した既習事項を生かして論述しやすくすると同時に、「判断基準」で求める「判断の要素」を含んだ論述を行いやすくするための工夫である。単に、パレスティナ情勢を解決するための自分の意見を羅列するだけではなく、論理的に歴史的な背景に沿って論述しやすくするための工夫である。

生徒は、授業の終末で、公民科「倫理」の源流思想の学習公民科「政治・経済」の既習事項である「現代の国際政治」の内容を踏まえて、一生懸命に論述を行う姿が見られた。



図 2 「ガザ地区において対立が緊迫する情勢を伝える新聞記事」南日本新聞2014年7月21日(右上)、2014年8月19日(左下)

(3) 「判断基準」に基づく指導と評価

本授業では、2つの点で既習単元の振り返りと関連を図っている。1つ目は、展開Ⅰにおいて「ユダヤ教」、「キリスト教」という2年次で既習の「倫理」の知識を活用する点である。2つ目は、直前計16時間の「現代の国際政治」の知識の活用である。

本単元において、パレスティナ紛争の解決に向けての方策について思考し、論述するためには既習事項の知識を総動員しなければ問題の本質やそれに基づく解決策を見いだすことはできない。生徒は、本授業の展開Ⅱにおいて、紛争の解決策について論述する際、教科書や授業ノート、資料集の既習のページを振り返りつつ、思考する姿が見られた。展開Ⅱにおいて、生徒はワークシートに紛争の解決策を記述する際に机間指導を行ったが、その場面では、既習事項との学習内容の関連を踏まえた「判断基準」をもとに「深化指導」、「補充指導」を行った（写真2）。

例えば、B状況に相当する内容を記述しつつある生徒については、既習事項を生かして国際連合のもつ紛争解決機能であるPKOやPKF、平和のための結集決議などの既習内容を想起するように指示した。また、C状況の生徒には、パレスティナ紛争の歴史的経緯について把握させるためにノートや、資料集の該当部分を示し紛争の経過について説明し指導を行った。これにより、B状況の生徒はA状況に必要な「判断基準」を、Cの生徒はB状況に必要な「判断基準」を意識した論述につなげることができた。

(4) 生徒の論述に対する評価

次に、十分な論述の時間を確保するために、ワークシート2を宅習課題として指示し、後日提出させた。生徒全員が提出し、A4サイズのワークシートにぎっしりと論述した生徒がほとんどであった。その論述内容について、「判断基準」により評価の上、生徒に「深化指導」、「補充指導」を行うこととした。

図3のワークシート2は、B状況と判断した生徒である。ワークシート2の論述の方法として事前に指示した①「パレスティナ紛争の原因は何か?」、②「紛争が深刻化した理由は何か?」、③「①②を踏まえての、自分の解決策」の論述に沿って解答がなされており、B評価に必要な判断の要素が含まれていると判断した。また、この生徒には「深化指導」として、①については、シオニズム運動の宗教的な背景を加え、②については、二重外交の詳細やパレスティナ分割決議などより具体的な事実に触れるよう促すこととした。特に③においては、国連が具体的にどのような活動を展開すべきか思考させ、論述できるように指導した。

「政治・経済」ワークシート No. 2 3年 組 番 氏名 _____

5 どうすればパレスティナ紛争が解決に向かうのだろう？
歴史的背景を踏まえて、自分の意見をまとめよう。

★ 意見を書く順序

①パレスティナ紛争の原因は何か？
⇒ ②紛争が深刻化した理由は何か？
⇒ ③ ①～②を踏まえての、自分の解決策

1 前15世紀にユダヤ民族がパレスティナに定住して、1世紀にローマ帝国に属し追いつかれ、世界各地に離散したことから始まり、ユダヤ人の増加が増えた。ユダヤ人は、シオニズム運動が起るようになった原因と言われている。また、イギリスの二重外交により、ユダヤ人、アラブ人はともに被害者となり、紛争が深刻化した。紛争の深刻化は、自分も思う解決策は、話し合いによる。互いに解決可能な問題ではないので、互い各国がイギリスA国に代わって話し合う。この問題を更によく話し、同じで話し合うべきだと思う。③ 国連が停戦を呼びかけた。17. ユダヤ人は、国連に自分も代わられたことを、自分も同じことを17. 国連にお願いする。自分も代わられたことを、自分も同じことを17. 国連にお願いする。自分も代わられたことを、自分も同じことを17. 国連にお願いする。

ここは超えよう！

図3 検証授業で使用したワークシート2

図4は、C状況の論述であると判断し、「補充指導」が必要と判断した生徒のワークシートである。このワークシートの論述では、①「パレスティナ紛争の原因は何か？」について「シオニズムによっておこった」と原因の一つを記述したり、②「紛争が深刻化した理由は何か？」について「バルフォア宣言」を取り上げたりしている。しかし、③「①②を踏まえての、自分の解決策」については、「ユダヤ人があきらめればよい」など抽象的な記述に終わっており、国際社会の関与やパレスティナ難民の救済などの現状の解決に関する具体的な提言に至っておらずC状況にあると判断した。この生徒の場合、「補充指導」で、ノートや資料集で国際社会の紛争解決のための活動等について振り返らせ、特に③について詳述させるように指導し、①②についてももう少し具体的な事実の記述を増やすように指導することによりB状況に近づくと考えた。



図4 ワークシート2 (C状況と判断した生徒の論述)

図5は、A状況にあると考えられる生徒のワークシート2の論述の中の、③「①②を踏まえての自分の解決策」の部分である。単に国連の事態解決のための関与だけではなく、PKO（国連平和維持活動）や、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）によるパレスティナ難民への保護活動等について具体的に触れており、①「パレスティナ紛争の原因は何か？」と、②「紛争が深刻化した理由は何か？」の記述に対する評価と併せてA状況と判断した。①、②については、生徒の多くがワークシート1の記述を活用することで、おおむねB状況の判断基準の内容を達成していた。

論述が難しかったのは、③の「①②を踏まえての、自分の解決策」であり、国連の関与のみ抽象的に求めている論述が多く見られた。A状況の論述では、既習事項を生かして国連の具体的な活動内容に踏み込んだり、パレスティナ分割決議自体の内容について踏み込んで論じている意見もあり、生徒が柔軟な発想でパレスティナ紛争の解決策を懸命に思考したことがワークシート2に表現されていた。

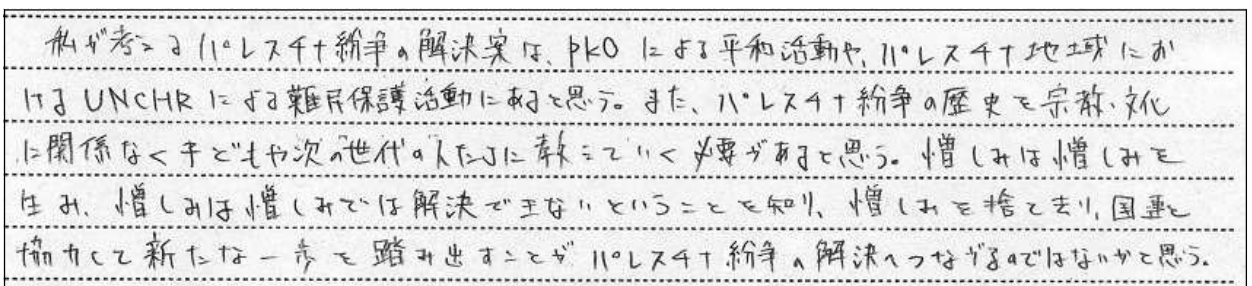


図5 ワークシート2 (A状況と判断した生徒の論述の③ 「①②を踏まえての自分の解決策」の部分)

Ⅲ 成果と課題

1 研究の成果

- ・ 既習単元と、課題解決的な学習の単元を接続した単元設定の工夫を行ったことで、既習事項の知識・理解を生かした思考・判断・表現をさせることができた。
- ・ ワークシートの工夫により、パレスティナ紛争の当事者のそれぞれの立場を整理して捉えることができ、効果的に課題解決のための思考・判断・表現が行えた。
- ・ 新聞記事を活用したことにより、教科書の内容を、最新の時事問題として意識し、高い興味・関心をもって課題の解決に取り組むことができた。
- ・ 生徒の論述を、指導・評価する方法として、評価規準で設定した「思考・判断・表現」の学習状況をより分析的・具体的に表した尺度である「判断基準」を活用することで、効果的な補充・深化指導を行うことができた。

2 研究の課題

- ・ パレスティナ紛争のような複雑な事象についての判断を求める学習課題の場合は、資料を精選し、表現させる時間を十分に与える必要がある。
- ・ 既習事項の定着状況の差が大きく、深化指導、補充指導の工夫を一層行う必要がある。